

目 次

■ トップメッセージ	02
「次の20年に向けて新しい飲料をお客様とともに創り、新たな価値を創造していく」 ハルナビバレッジ株式会社代表取締役社長 グループCEO 青木 麻生	
■ 創業者メッセージ	04
「憲法記念日に想う～聞こえてくる軍事大国への足音」 ハルナグループ名誉会長・創業者 青木 清志	
■ ハルナグループ会社概要	06
ハルナビバレッジ／ハルナプロデュース／HARUNA／HARUNA WEST HARUNA Asia／ハルナバリューネットワーク／ハルナジョイパック	
■ ハルナグループ2016年度トピックス	20
■ CSV（共通価値の創造）	22
■ コーポレート・ガバナンス	23
社外・非常勤取締役からの御意見	
■ ステークホルダーからのご意見	26
群馬テレビ株式会社 代表取締役社長 武井 和夫 様 株式会社 JR 東日本ウォータービジネス 代表取締役社長 鈴木 浩之 様	
■ 環境経営／社会貢献	28
■ ワーク&ライフ・バランス	32
～未来構想委員会の取り組みについて～	
■ 社員とともに～いきいきと健康的に働ける会社へ～	34
■ ウェルネスサイエンス研究所	36
■ 海外事業	38
■ 品質管理	40
■ ビジネススクール	42
■ ハルナグループ沿革	44

〈トップメッセージ〉

次の20年に向けて新しい飲料をお客様とともに創り、 新たな価値を創造していく

ハルナグループは1996年の創業から昨年で20年を迎えることができました。これもステークホルダー皆様からの多くのご支援があったのと、改めて深く感謝申し上げる次第です。

経営理念である「顧客志向を経営の核として顧客評価に値する品質とは何かを問い 顧客思考を超える製造とは何かを考え 顧客歓喜の果実を己の収穫とする」。私たちハルナグループは創業の精神・DNAを継承し、これからも人と技術と顧客志向を磨きつづけ、飲料を中心に新たな価値ある商品を創り、お客様、消費者、取引先、地域社会などステークホルダーの皆様から評価される企業グループを目指してまいります。

さて、2016年の飲料市場は、西日本を中心とした夏場における猛暑等の影響もあり、カテゴリーでは緑茶、ミネラルウォーターが牽引し国内飲料市場全体も伸長、販売数量は前年を上回る2%増となりました。このような状況下、当社におきまして16年度上半期は、前年度からの積極的な企画提案営業による新規共同開発商品の増加や主要顧客からの受注が堅調に推移し、自社工場はフル稼働ならびに全国提携工場への生産委託が増加する状況が続きました。

冬場に入り2L大型容器の茶系飲料などの販売に一時ブレーキがかかりましたが、500ml以下の小型ペットボトルの新規開発商品の受注や主力プライベートブランド商品の販売が好調に推移したことで、ハルナグループ全体の販売数量は過去最高の42,012千ケース、前期比107%と業界全体の伸長率を上回る結果となりました。

ハルナグループは2016年度を初年度として2018年度までの3カ年を新たな企業価値創造期として、飲料市場と顧客の変化に迅速に対応し、現在の顧客に新たな価値ある商品を提供するのみならず企画提案力・生産技術力・バリューネッ

トワーク力のある飲料プロデューサーとしての価値創出を継続することで、これからも新たな市場・顧客を創造し独創性ある企業としてステークホルダーの皆様の期待に応えてまいります。

2016年度の取組み成果につき皆様にご報告いたします。

①グループマーケティング力の強化について

・2016年度月平均自社プラント受託商品数は305商品となり、前期比111%で過去最高の商品数となりました。商品数の増加は閑散期（下半期）の稼働率向上に繋がっております。

・お客様との共創による機能性商品や新ジャンル、健康志向などを意識した付加価値商品の開発に注力し採用された商品数は80商品と、前期の68商品を大きく上回ることができました。

②生産イノベーション（ローコスト・ハイクオリティ・ハイテクノロジー）の進化について

・自社6プラントの総生産数量は2,999万ケース、前期比104%と過去最高を更新しました。

・ハルナプロデュース、タニガワプラントにて、国際的な食品安全システムであるFSSC22000を認証取得し、これでハルナプロデュース全プラントでのFSSC22000の取得が実現しました。ハルナジョイパックにおいても認証手続きが最終の段階で、2017年度中には認証取得の見通しです。

・生産数量の増加や多品種小ロット化が進む中で、生産効率化の取り組みやエネルギーコストの低下の結果、前期比160百万円のエネルギーコストの削減ができました。

③グループバリューチェーンの強化

・自社プラントならびに全国提携工場からお客様の物流拠点への配送形態多様化や数量の増加に対応するため、より低コストで柔軟な運輸企業との協力関係を強化して物流全体のコストを引き下げること的成功し、ケースあたりの費用は前期の20.8円から今期19.8円とケース単価1円の削減ができました。

④海外飲料プロデュースの事業化

・グループ海外拠点であるタイ国にて、現地流通・小売企業向けにプライベートブランドの企画提案から商品開発を継続しております。しかし、販売活動において主要顧客の政策の変更により、商品化が実現できず計画を大きく下回っております。今後の戦略としては、マーケティング力と販売ネットワークの開拓を強化する必要性を認識しております。リサーチで分かってきたタイ人の潜在的ニーズである健康や機能性を付加した本物志向の商品をハルナオリジナルブランドとして自社商品を開発し、新たな営業戦略で市場と顧客の開拓を実行してまいります。これらを目的とし、現地の日系企業との太いパイプを持つコンサルティング会社（東洋ビジネス社）と新たにパートナーシップ契約を締結し、2017年4月に新合弁会社を設立しました。

⑤企業価値を創造する人財の育成

・ハルナグループは飲料事業を通して、社員一人ひとりが顧客と消費者が感動し満足する価値の創出をミッションとし、それを実現する人財の育成を最も重要な企業活動の一つと認識しております。そのために、比較的若い経営幹部が中堅・若手社員とのOJTによる育成により社員の能力を引き出し成果に繋げるエンパワーメントを目的とした目標管理・人事評価システムの改良改善に継続して取り組んでおります。

・開校12年目になるハルナビジネススクールにて、全社員を対象に社外・社内講師から幅広いテーマで勉強を重ね社員の学習意欲の向上や業



ハルナビバレッジ株式会社
代表取締役社長 グループ CEO
青木 麻生

務への改善取り組み、自己啓発などモチベーション向上に貢献しております。

・グループビジョンである持続的に利益を伴う成長を実現するため、社員の成果や貢献度に応じ給与や賞与の配分など人財投資を継続的に増やしていける経営に取り組んでまいります。

私たちハルナグループは顧客や従業員のロイヤルティ（信頼性・誠実性）を高め、企業の持続的発展の基礎となるCSR（企業の社会的責任）に加えて、ステークホルダー皆様とともに社会的課題の解決への一助や経済的価値の創出を目指していくCSV（共通価値の創造）が、これからの時代はさらに重要になると考えております。

これからも皆様と力を合わせ、グループの企業価値の向上に取り組んでまいります。どうぞご支援ご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

（了）



創業者メッセージ

憲法記念日に想う

～聞こえてくる軍事大国への足音～

スウェーデンの国際平和研究所が公表した2016年度の世界全体の軍事費は、1兆6860億ドル（約184兆円）だった。2000年以降、増加傾向が強まり、高い水準で推移している。その内訳は米国6110億ドル、中国2150億ドルで、世界の軍事費の50%を占めているが、2017年度から全体の水準はますます高まっていくと思われる。なかでも日本は8位だが、2020年頃には5位以内を占めるのではないだろうか。2016年度に多くの安全保障関連法律を成立させており、米国政権の産軍複合体に組み込まれていく地政学的磁力を考えると、日本の軍事予算は変貌していく。

朝鮮半島の有事の可能性が現実味を帯びてくるに従い、日中韓の関係において米国を間に挟んだ安全保障上の基本的枠組みも変わる。しかしながら、北朝鮮と米国の間には本格的な戦争の勃発はないと考えるが、中国は北朝鮮を政治的、軍事的に支配下に置くだろうと思われる。今後も政治・外交・経済制裁の駆け引きが続き、数年が経過するなかで、米国は東アジアへの干渉から手を引き、東・南アジアを中国に委

ねる選択をするのではないか。やがて、日本は専守防衛の軍事戦略から極東の軍事大国の道を歩みだすことになる、私は考える。

そもそも、ロシアを含むユーラシア大陸の極東に位置する国々は、第二次世界大戦後における平和条約すら締結しておらず、国境も未だ定まっていない。正式には戦争が終結していない状態である。

なぜ、70年を越す程の長い時間の停滞が続いていたのか。やるべき外交戦略の要が、ワシントンの意向に沿うことが絶対の条件にあり、常に為政者は苦渋の選択を為してきたことにある。

冷戦後、日米安全保障の役割が実質的に変貌したにも関わらず、日本は無作為にそれを延長したことで、その後の地政学的歴史を歪めてしまった。この時期に、日米安保条約の抜本的改革のページを新たにすべきであった。そして、アジア全域に向けた安全保障体制に目を注ぐ、多極への配慮に努力を傾けるべき歴史的機会を失った。

国の命運を、他国の「核の傘」に委ねて、国の主権が常に定まらない浮遊





する状況から脱して、21世紀の国づくりへ勇躍すべきまたとない世紀の決断であったと思う。

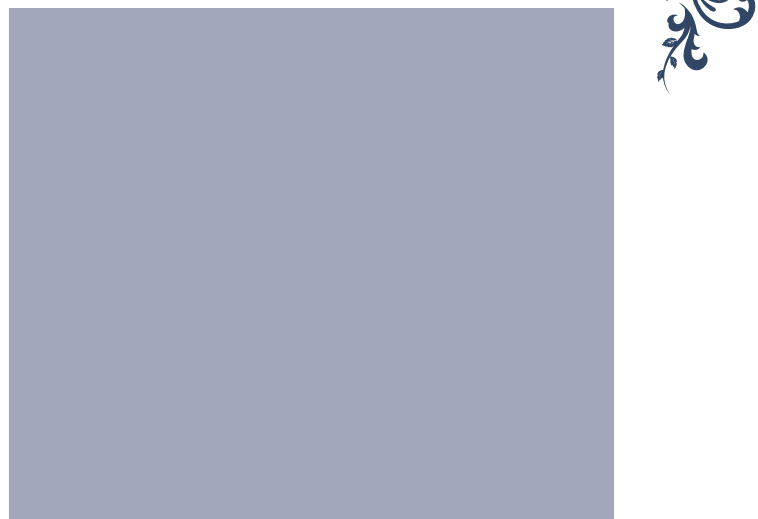
真の自立体制への希求が、すべての国民の気持ちのなかにあったのは間違いない。そのことを、憲法記念日に改めて考えさせられた。

5月3日、憲法施行から70年が経過した憲法記念日に、安倍晋三首相は3年後に憲法改正をめざすとし、9条に自衛隊の合憲化を付加したいと述べた。私はそのことは正しく、必要な改正だと思う。

憲法の前文には、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」とある。ここに、9条の非武装平和主義があるが、前文にあるような状況は戦後70年来の歴史にはなかった。後段にある戦力の放棄と交戦権の否定は、いっさいの自衛権の放棄を意味する。憲法上は戦力をもたないので自衛のしようがない。

しかし、他国からの脅威に対して自衛権は主権国家の固有の権利であり、国を守ることは憲法的前提になる。よって、2020年をめざして9条に自衛隊の合憲化を付加することが可能になれば、初めて憲法違反が避けられることになり、意義深い。無条件の戦力の放棄ではなく、侵略戦争の否定にこそ、平和主義の真の精神がある。

(了)



ハルナグループ
名誉会長・創業者
青木 清志

1996年、清涼飲料水の製造販売会社としてハルナビレッジ株式会社を創業。20年間、代表取締役社長、代表取締役会長を務めながら、群馬大学客員教授・法政大学大学院講師・高崎経済大学非常勤講師・上武大学講師などを歴任。

また、商工会議所や日本経済連合会、新聞社等が主催する数々の講演会で、アントレプレナーシップ教育から経営理論、経済理論などを講演。

昨年2016年には、ハルナグループ名誉会長へ就任。同年1月には、第33回優秀経営者顕彰「優秀創業者賞」を受賞。また、同年4月には上毛新聞にて「心の譜」に全50回が連載され話題となった。



HarunaTM

ハルナグループ概要

ハルナビバレッジ株式会社 (経営企画・人事・財務経理)

ハルナプロデュース株式会社 (営業・商品開発・製造・品質
ソイミルク製造・ボトルブロー事業)

HARUNA 株式会社 (営業・国際事業・商品企画・開発)

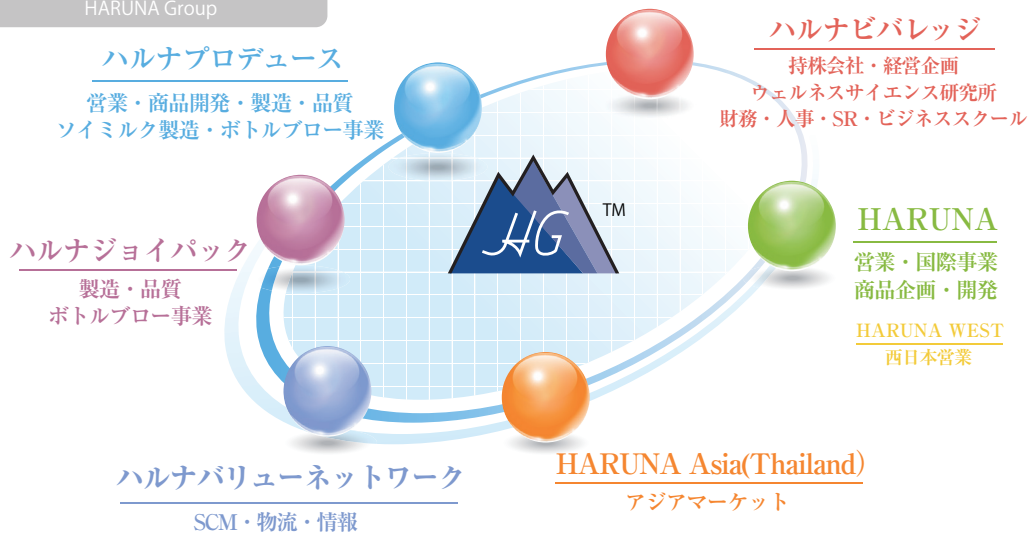
HARUNA Asia(Thailand) Co.,Ltd. (アジアマーケット)

ハルナバリューネットワーク株式会社 (SCM・物流・情報)

ハルナジョイパック株式会社 (製造・品質・ボトルブロー事業)

ハルナグループ組織・事業相関図

HARUNA Group



●●● ハルナビバレッジ ●●●

Haruna Beverage Inc.

経営企画・人事・財務経理・研究開発

創 業	1996年2月23日		
所在地	東京本社：〒103-0027 東京都中央区日本橋3-8-4 日本橋さくら通りビル2F TEL：03-3275-0191（代）FAX：03-3275-0192 群馬本社：〒370-3531 群馬県高崎市足門町39-3 TEL：027-387-0101（代）FAX：027-387-0102 ウェルネスサイエンス研究所：〒370-3531 群馬県高崎市足門町39-3 TEL：027-372-1230 FAX：027-372-1255		
資本金	4億2090万円（発行済株式数8718株）	連結売上高	211億円（2017年3月末）
役 員	名誉会長 青木 清志 代表取締役社長（グループCEO） 青木 麻生 常務取締役（CFO） 栗原 健一 取締役 小出 信介（小出公認会計士税理士事務所代表） 取締役【社外】 須齋 嵩（群馬大学元教授） 取締役【社外】 岡 俊明（サッポロビール飲料㈱元代表取締役社長） 監査役 小出 亮介（小出公認会計士税理士事務所） 監査役 菅谷 重信 監査役 小林 欣司 常務執行役員 藤井 満		

ハルナビバレッジ株式会社 社長室 Chief Financial Officer より

ハルナビジョン2018「新たな企業価値創造期」の初年度にあたる2016年度は、商品開発と営業、生産を統合した組織の再編を行うとともに、人財投資も積極的に行わせていただき、お客様満足と社員満足の充実に取り組んでまいりました。

また、1週間単位で経営を見通し、現状把握と今後の対策に向けて取り組みを行ってまいりました。改善すべき点は多々ありますが、数字的な意識は高くなってきたと感じております。いつも立てた目標に対し厳しく向き合い、要因を把握し数値的観点からアプローチをしておりますが、数値目標は手段であって目的にはなり得ません。「変化を感じ取っているのか」「戦略とつながっているのか」ということを自問しながら、業績という鏡と向き合うことを心掛けています。

経済環境、社会情勢、消費環境が変化していくなか、「変化」に挑戦できるチャンスだと捉え、変化に合わせた自社の存在価値を考え抜き、お客様とともに発展し、社会や経済に貢献し続けられる企業を目指し努力してまいります。



ハルナビバレッジ株式会社
常務取締役 CFO
栗原 健一

●●●●● ハルナプロデュース ●●●●●

Haruna Produce Inc.

マーケティング本部（営業・商品開発）・生産本部（製造・品質・ソイミルク製造・ボトルブロー事業）

創 業	2009年4月1日														
所在地	<p>本社・生産本部：〒370-3531 群馬県高崎市足門町 39-1 TEL：027-372-6911（代）FAX：027-372-6912</p> <p>マーケティング本部： 〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-8-4 日本橋さくら通りビル 2F TEL：03-3275-0191（代）FAX：03-3275-0192</p> <p>商品開発：〒370-3531 群馬県高崎市足門町 39-3 TEL：027-384-4747（代）FAX：027-310-0070</p> <p>ハルナプラント：〒370-3531 群馬県高崎市足門町 39-1 TEL：027-372-5875（代）FAX：027-310-0717</p> <p>タニガワプラント：〒379-1307 群馬県利根郡みなかみ町政所 1011 TEL：0278-62-1111（代）FAX：0278-62-1144</p>														
資本金	4億円														
役員	<table> <tr> <td>代表取締役社長</td> <td>中澤 幹彦</td> </tr> <tr> <td>常務取締役兼専務執行役員</td> <td>古市 直也</td> </tr> <tr> <td>常務取締役兼専務執行役員</td> <td>山崎 敦也</td> </tr> <tr> <td>執行役員</td> <td>松下 護</td> </tr> <tr> <td>執行役員</td> <td>小池 賢司</td> </tr> <tr> <td>執行役員</td> <td>邑上 豊隆</td> </tr> <tr> <td>執行役員</td> <td>清水 秀憲</td> </tr> </table>	代表取締役社長	中澤 幹彦	常務取締役兼専務執行役員	古市 直也	常務取締役兼専務執行役員	山崎 敦也	執行役員	松下 護	執行役員	小池 賢司	執行役員	邑上 豊隆	執行役員	清水 秀憲
代表取締役社長	中澤 幹彦														
常務取締役兼専務執行役員	古市 直也														
常務取締役兼専務執行役員	山崎 敦也														
執行役員	松下 護														
執行役員	小池 賢司														
執行役員	邑上 豊隆														
執行役員	清水 秀憲														

2016年度ハルナプロデュース（株）の初年度が終わり、4月より新たなスタートの時を迎えました。2016年度は、営業、生産、商品開発が一つの機能として、感動経営を実現するという目標を掲げ、取り組みを進めて参りましたが、一人ひとりが前向きに喜びと成果を感じられた1年になったのではないかと思います。

そして、2017年度は独創性ある飲料プロデューサーを目指し活動していく中で、真価を問われる第2期になると感じています。我々の強みである【人財力】【創造性】【行動力】、そして現場で磨いた【生産力】【営業力】【商品開発力】を最大の力とし、お客様に最高の感動を感じていただきたい。常に新たな価値を創出し高い志を持ち、行動していくことこそが大切であると思います。全てのステークホルダーの皆様の幸せを目指し、実践していくこと、社員全員が学び合う集団として学びからチャレンジし、実践していくことを最大の喜びとして活動して参ります。今後ともご指導よろしくお願いたします。



ハルナプロデュース株式会社
代表取締役社長
中澤 幹彦

■ ハルナプロデュース 〈営業〉

新しい価値を創造します！

2016年度はハルナプロデュース初年度ということで、まずは常に変化し続ける消費者や顧客のニーズや嗜好に迅速に対応するため、開発・営業・購買・製造・品質という当社のすべての機能を結集し、提供価値の中身を変え続けながらマーケティング（売れる仕組み）とビジネスモデル（利益を生み出す体質）を作り上げるべく様々な活動を行って参りました。

なかでも、特により付加価値の高い新規製品の開発と、既存製品の価値見直しによるブランド力および販売力の向上について、開発・営業を中心に顧客やグループ各社との協業に積極的に取り組み、また目的別にプロジェクトチームを組み、様々な提案を行って参りました。

今後はさらにその取り組みを進化させ、「顧客密着」をキーワードに「もっと新しいもの、もっと美味しいもの、もっとドキドキするもの、もっと感動するもの、もっとお得なもの」を創造し、最終顧客である消費者の皆様には「新しい価値」をお届けするべく開発・営業一体となり、スピード感をもって取り組みを進めて参ります。



■ ハルナプロデュース 〈商品開発〉

2016年度に行った主な取り組み

商品開発ユニットでは、市場情報の収集、商品の企画から配合設計、試作品作製、賞味期限に関わる安全性試験（官能試験、物性試験）等、お客様のイメージを具現化する新規商品の立ち上げをお手伝いさせていただいております。ペットボトル飲料の開発だけでなく、缶、テトラパック、カート缶、パウチ容器、ガラス瓶等、多種多様な容器に対応できる商品開発体制を整えております。

昨年度のご採用内容を振り返りますと、緑茶飲料については、高濾過された透明な緑茶飲料から、粗濾過であるにごり系の緑茶飲料にシフトされ始めております。また、その他の茶系飲料も変化しており、ノンカフェインタイプの麦茶タイプが増え、季節性も夏に限定しない通年商品にシフトしている傾向がございます。カロリーゼロやオフなどの淡泊な飲料が、以前は採用基準の必須条件でありましたが、徐々に低カロリー商品からカロリーを気にしないコンセプトである高付加価値的な飲料商品の立ち上げが目立ってきております。食感を感じる飲料の希望も強くなってきております。

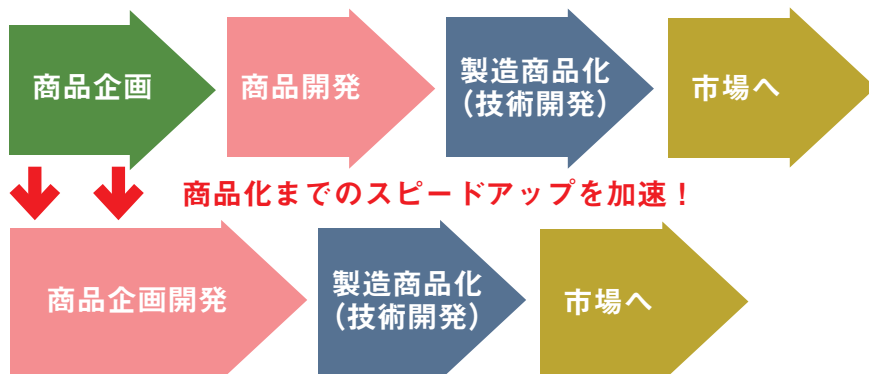
また、機能面効能を謳うことができる特定保健用商品、機能性表示食品の要望も徐々に拡大しております。商品開発では、これらの商品カテゴリーに対応できる体制を整え、お客様に満足していただける商品設計を常に心がけ、進めさせていただいております。

2017年度の取り組み

市場変化に対応すべく商品の差別化が常に求められています。原料での産地や品種などでの商品は当たり前にある中、もう一步踏み込んだ原料のこだわりが必要になってきております。我々はこれら市場に対応できる新規な原料開発を進め、お客様に感動していただける商品開発を進めてまいります。



また、清涼飲料水の新商品の寿命は短くなる傾向がさらに加速しており、常に新しい商品を市場にすばやく展開することが、より重要になってきております。これまで商品開発ユニットでは企画部門と商品開発部門を分けた組織としておりましたが、加速する市場スピードに対応すべく、2017年度においては、担当者が企画から商品開発まで一環して行えるよう組織の改革を行い、対応強化して参ります。



■ ハルナプロデュース 〈製造・品質〉

製 造

2016年度はハルナプロデュース（株）が新たにスタートし、営業、商品開発、生産の各部門が一つに結合することで、変化する消費動向と顧客ニーズに合わせ、お客様が求めるPET飲料製品を生産するために新たな商品の対応力拡大を進めてまいりました。なかでも、濁り緑茶や麦茶、果汁入りハーブティーなどの生産可能ラインの増強を図りました。多品種小ロット化の波は年々進んできており、より多くの商品をより効率よく生産するために、6つのプラントでの運用を開始した「見える化システム」の活用と現場力の向上に努め、切替えや型替えといった生産していない時間を削減することで生産量の拡大につなげております。

また、市場環境の変化や社会情勢が刻一刻と変化する中でも安定的な工場の稼働を続けるために、電力やガスなどの効率的な使用と省エネルギー対策を進めることでローコスト生産に取り組んでおります。その中でも2016年度は、新電力会社との協力体制を組むことができ、電気費用の抑制に繋がりました。併せて工場内での取り組みとして、熱源の放熱ロスを防ぐための保温カバーの設置増強や、電力使用量を抑制するために高効率な電気機器の導入などを進めております。さらに、生産工程の冷却システムの見直しにより、冷却水として利用している使用水の抑制を図りました。

その上で、お客様に安心して商品を購入し続けていただくために、さらなる製品品質の向上を目指し、より安全な製品を生産できる現場を構築するため、国際的な食品安全システムであるFSSC22000食品マネジメントシステムの認証を、2015年度のハルナプラントでの取得に続きタニガワプラントも2016年度に取得いたしました。引き続き生産の現場では、ローコスト・ハイクオリティー・ハイテクノロジー生産体制の確立に挑戦し続けます。



品 質

創業以来、独立した品質部門を設置し商品の安全性を維持、管理する体制を徹底しております。品質部門では製造現場の衛生を維持するため、様々な手法でチェックを行い維持と管理向上に取り組んでおります。また、安全でおいしい、しっかりとした品質の商品ができているか確認するための製品検査、商品の安全性を維持管理するためのシステム管理など、品質部門では製造現場の衛生管理から最終製品の検査まで幅広く管理を行っております。

今後も、関係部署としっかり情報共有などのコミュニケーションをとり、何事にも真剣に取り組み、お客様に安全で感動していただける商品づくりを継続してまいります。

品質第一の姿勢と考えは品質部門だけでなく、製造部門をはじめグループで共通した認識で活動しており、より良い商品づくりは全部門で取り組んでおりますので、社員一人ひとりが品質意識を持ち続け、これからも安全と感動、おいしいをお届けします。





Haruna Inc.

営業・商品企画・貿易

創 業	2008年4月1日
所在地	東京本社： 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-8-4 日本橋さくら通りビル2F TEL：03-3517-5745（代）FAX：03-3517-5759
資本金	2億円
役 員	代表取締役社長 青木 日出生 取締役兼執行役員 松井 健一



Haruna West Inc.

西日本営業

創 業	2017年4月3日
所在地	〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6-7-3 第6新大阪ビル903号 TEL：06-6195-1755 FAX：06-6195-1775
資本金	1,000万円
役 員	代表取締役兼社長執行役員 松井 健一 取締役 青木 日出生

HARUNA（株）は、ハルナグループ創立当初より構想して参りました自分たちの商品、またはセレクトされたブランドをハルナのコアである飲料を通してご紹介させていただき、国内および海外でも発信したいと願っております。

構想より約10年経ち社内で新しい機能が発足し、変化する社会からのニーズを探求し約10年後の2017年度を迎えることができましたのは、お客様をはじめさまざまなステークホルダーの皆様と社員の方々のおかげだと切に感じております。

日本でRTD（Ready To Drink）として先駆けたヨーロッパ産のスムージー飲料と、ユニークなデザインでこだわったお茶系ペットボトル商品を皮切りに、現在では商品ラインナップにおいて今日のニーズ、または新たな潜在的ニーズをさらに掘り起こせるよう推進しております。また、今年から新たなジャンル・商域にもリスクを考慮しながらチャレンジして参りたいと思っております。

大切なのは、私たちの商品はお客様に新たな発見を提供しているか？ 笑顔にしているか？を常に問うことです。シンプルに伝わるコンセプトの明確性、デザイン性、価格、味の追求を図り、さらに製造者としての安心・安全を引き続き2017年もお届けいたします。



HARUNA 株式会社
代表取締役社長
青木 日出生

Haruna とわたし、
あたらしい自分。

お客様ひとりひとりの笑顔と
わくわくする毎日を
わたくしたちは提供し続けます。

自然を感じるおいしさ
たいせつな人を思う気持ちを
これからも。

健康をやさしさでつなぐ。
Haruna





Haruna Asia(Thailand) Inc.

アジアマーケット

創 業	2013年4月22日
所在地	本社： 32/23, Sino-Thai Tower 2F., Sukhumvit 21 Rd. (Asoke), Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok, 10110 THAILAND TEL：+(66) 2258-0937 FAX：+(66) 2258-0939
資本金	6,800万円
役 員	代表取締役社長 CMO 青木 日出生 常務取締役 梅木 英徹 取締役兼執行役員 牛久保 純平

2017年度4月より HARUNA Asia (Thailand) 株式会社は、タイの現地パートナーと統合し、3年間タイで培ってきました経験と日本のノウハウ・技術をプライベートブランドの創出だけでなく、日本同様、自社商品および共同開発品を新たに創出し、提供して参ります。アセアンの大きな市場とその先の中国、インドを見据え、アジアでもトータルプロデュースの実現を目指します。

現地事務所内では商品開発員の技術強化とラボの拡充を行い、様々な最終商品の試作をし、品質の大切さも含め営業展開して参ります。また、タイ独自の研究も将来強化していきたいと考えております。

さらに自社商品作りだけでなく、現地商品とのコラボレーションにも視線を注ぎ、お客様に日本のトータルプロデュースとタイ人による開発・アイデアを融合し支持いただけるように新たに邁進していきます。

これからも現地有力企業・大手財閥・日系企業の方々との関わりの中で、少しでもタイ王国に貢献し、タイ社会でも必要とされる企業を目指し、またハルナの商品を通し喜んでいただけますよう目指していきます。



●●● ハルナバリューネットワーク ●●●

Haruna Value Network Inc.

バリューネットワーク・物流・倉庫

創 業	2005年3月1日
所在地	本社： 〒370-3504 群馬県北群馬郡榛東村広馬場 3044-1 TEL：0279-25-8385（代） FAX：0279-54-6115 タニガワ事務所： 〒379-1307 群馬県利根郡みなかみ町政所 1011 TEL：0278-62-1115 FAX：0278-62-1718
資本金	1億円
役 員	代表取締役兼社長執行役員 三原 修一 執行役員 伊藤 智隆

2017 年度事業方針

昨年度は新社名でスタートし、皆様のご協力とご支援の下、瞬く間のような1年間を経過しました。これまで順調に運営できましたこと、深く感謝申し上げます。

昨期の重点課題については運輸、並びに倉庫事業において、様々な新規物流メーカー様とのネットワーク拡大を実現し、配送原価、保管費用の低減に注力することができました。

2017年度は、和歌山自社工場を中心とした西日本以西への物流サービス強化が大きなテーマとなります。消費の変動、生産効率最大化と密接に連携するべく、より一層の各種改善に努め「ローコスト・安全・安心」の基本を守り、お客様にご満足いただける物流業務に努めて参ります。

1. お客様ニーズの変化、市場の変化に対し、「運送」「保管」「情報提供」の各業務を通じて的確にお答えして参ります。

個々のお客様ごとに物流ニーズを的確に捉え、「プロフェッショナル」として能動的な会話を通じて顧客満足度の向上を推進します。

2. ローコストオペレーションの推進

- ① SKU 情報管理を徹底し、経営資源を最大限に活用して物流コスト低減を行います。
- ② 現状の業務見直しを行い、「ムリ、ムダ、ムラ」を徹底的に排除します。
- ③ 運輸と倉庫のオペレーション共有化を進め、相互管理による業務効率化を推進します。

(1) 各拠点自社倉庫の資源を最大限に活用して物流コスト低減を推進します。ケース毎配達単価。横持ち費用等、物流コスト低減を実施します。

(2) 販売数量ボリューム増加を活かし、各協力メーカーとの価格設定見直しを実施します。

3. HVIS（新設 DB）運用による情報活用（ハルナバリューインフォメーション）

① HVIS のタニガワ、ハルナジョイパックへ運用を拡大します。

② 物流、運輸管理システムの統合による新システムの早期立ち上げを遂行します。社内、社外に対し製品保管、出荷状況等の情報を提供します。

4. 安全・品質重視のロジスティクス業務の実現

① 汚破損防止体制の一層の強化

目標 = 100 万ケース当たり 件数：1.0 件以下 ケース数：5 ケース以下
(2016 年度はそれぞれ 1.5 件、6 ケース以下)

② 誤出荷防止

目標 = 500 万ケース当たり 0.7 件以下 (2016 年度 = 1.0 件以下)

5. 顧客と直接取引契約の締結推進

① 積極的に顧客と直接物流交渉を推進、当社の企業価値をアピールしお客様に合わせた新規サービスの創生と向上に努めます。

② 契約条件の「見える化」を促進、わかりやすくサービス度の高い物流条件の相互理解を深め、当社の存在価値を高めます。

6. 新規収益事業の創生

① 運輸手配、倉庫保管、営繕の外販強化をします。現有する経営資源の新たな活用事業を構想し、これまで同様の物流品質を活かした物流サービスの提供をスタートいたします。

② 「物流研究プロジェクト」を立ち上げ、中期的、長期的な物流業務の進化（データ標準化、システム化）を研究し、各種業務の効率化を進めて参ります。



知恵と工夫の集団に



ハルナバリューネットワーク株式会社
代表取締役兼社長執行役員
三原 修一

● ● ● ハルナジョイパック ● ● ●

Haruna Joypack Inc.

製造・品質・ボトルブロー事業

創 業	2013年4月1日
所在地	〒640-0441 和歌山県海南市七山711-1 TEL：073-486-0231（代）FAX：073-486-0210
資本金	3億円
役 員	代表取締役兼社長執行役員 小川 啓治 取締役兼常務執行役員 浅野間 博文 執行役員 山本 宏

2016年度のチャレンジと2017年度に向けて

2016年度は「ハルナビジョン2018」の目標達成に向けお客様のご要望にお応えするため、大型容器飲料（2L、1.5L、900ml）に加え、小型容器飲料（500ml PET）の本格生産を開始しました。

そのために導入した設備等のオペレーションスキルを高める活動への取り組み、そして多くの製品を生産するために、社員一丸となって新たな生産体制に取り組みました。多くのお客様にご満足いただきたいとの熱い思いで、共にチャレンジした社員の皆様に感謝いたします。このチャレンジで生み出された財産は、確実に個人及びハルナジョイパックの成長に繋がったと感じています。

2017年度もさらなる変革にチャレンジします。

生産体制も24時間連続体制に移行し、生産性向上に取り組むとともに、「お客様品質を重視した物づくりの基本に徹する」をテーマに、愚直に生産活動を推進し製造品質の向上とお客様の一層の信頼を高めていくことに、この1年取り組んでまいります。



ハルナジョイパック株式会社
代表取締役兼社長執行役員
小川 啓治

飲料事業の変革

飲料事業は営業部門と連携し、お客様のご要望に応えるため毎年、増産する生産体制に変化を重ねてきました。この変革へのチャレンジは2014年からの構想を具現化するためであり、2017年度はその構想を評価し、かつ来年度以降をどう迎えるかの重要なチャレンジ年度になります。このチャレンジでハルナジョイパックがどう成長するかを楽しみとしています。

- ・2013年度…通年1シフト生産体制（月曜～金曜）
- ・2014年度…夏季需要期（2ヶ月間）2シフト24時間生産体制（月曜～金曜）に変革
- ・2015年度…夏季需要期（5ヶ月間）2シフト24時間生産体制（月曜～金曜）、小型容器飲料（500mlPETボトル飲料）の生産に向け、設備設置を実施
- ・2016年度…年間を通して2シフト生産体制（月曜～金曜）に変革。大型容器飲料（2L、1.5L、900mlPETボトル飲料）に加え、小型容器飲料（500mlPETボトル飲料）の生産活動を行う大変革
- ・2017年度…3シフト24時間連続生産体制に変革

ボトル成型事業

ボトル成型事業は、お客様にご満足いただける新規事業として、お取引会社と共同でチャレンジしています。ボトル成型設備の8割の能力で生産活動をスタートし、多くの課題を乗り越えながら、その設備能力を最大限発揮できるよう改善・変革を重ねています。

- ・2013年度…新規事業として着手（共同事業）
- ・2014年度…ボトル成型を開始（設備生産能力の約8割にてスタート）
- ・2015年度…3シフト24時間連続生産体制に変革
- ・2016年度…共同事業会社様との連携を強化し、新たな視点で技術改善へチャレンジ
- ・2017年度…新スキームによる設備能力の最大限の発揮に向けた変革



2016年度トピックス

トピックス



**ハルナジヨイパック
小型容器飲料の生産が本格稼働**

2016年4月より小型容器飲料の生産が始まり、より多くの製品をお客様へお届けすることができるようになりました。エネルギー効率も、生産数量が増えたことによる効率アップと省エネルギー活動の取組効果と合わせて、昨年度に対し少ないエネルギーで生産を行うことができました。



**国際的品質基準の導入…ハルナプラントに続き
タニガワプラントでもFSSC22000取得**

国際的食品安全マネジメントシステムの1つでもある「FSSC22000」認証を2015年ハルナプラントに続き、2016年にはタニガワプラントでも取得いたしました。ハルナグループは品質基準に基づき、安心安全な生産を行っております。これからも社内ルールの励行、生産システムと人の両面から衛生管理を徹底していきます。



国境なき医師団、あしなが育英基金へ寄付金贈呈

ハルナグループでは社会貢献活動理念に基づき、活動方針に沿って、昨年のユニセフへの寄付に続き、今年も各国で医療を受けられずに苦しんでいる人々の命を救う国境なき医師団と、経済的に苦しい遺児らに奨学金を貸し出して支援しているあしなが育英基金へ寄付金を贈呈いたしました。



地域活性化キャンペーン

「ぐんま愛ここに生きる」を支援

Haruna Group is a beverage producer. We have value-added products from Gunma to various regions in Japan, and we deliver them to Asia.

Haruna Group is a beverage producer. We have value-added products from Gunma to various regions in Japan, and we deliver them to Asia.

Haruna Group is a beverage producer. We have value-added products from Gunma to various regions in Japan, and we deliver them to Asia.

群馬県の新聞社、上毛新聞社や群馬県と自治体などが主催で、人口減少対策として2016年7月から取り組んでいる「ぐんま愛 ここに生きる」を支援。若者の定住促進の機運を高めるのが目的となる求人広告を掲載し支援しています。

上毛新聞「心の譜」

「ハルナグループ創業者・青木清志」連載

Haruna Group Chairman Aoki Kiyoshi

還暦過ぎ 未知の分野へ

20代までは演劇一筋の生活だった。プロの舞台演出家を夢見て命を削るような下積み生活の末、胸を病み、3年間に及ぶ闘病生活で夢を放った。心機一転、商社マンとして世界を駆け回り、その後独立した。福祉機器の開発という新たな夢を見つけて企業経営の道を選んだが、不運が重なり福祉機器の分野からの撤退を余儀なくされた。借金を背負ってなお、再起を目指す。

人生の全てを注ぐ、価値のある仕事とは何か。模索する中で見いだしたのが「誇るべき日本の水」を世界に発信することだった。僕がそれに気づくことができた時、たまたま

還暦だったにすぎない。適切な役割を担えば能力のある人材は自ら活躍するようになり、経営という一つの舞台をともに築いていけるはずだ。役者である部下を束ね、僕自身は演出家に徹する「演劇的経営」。これなくして、未知の分野である製造業への挑戦はありえなかった。希望と挫折を繰り返して、見えない力に翻弄され続けてきた気がする。だが、その全ての経験の上に今がある。いかにも未来へと引き継いでいくか。それが僕の最大の使命だと確信している。

「運命とは、最も苦しい場所へと、あなたの魂を運ぶのだ」（シエークスビー）

日本の水 世界に発信

ハルナグループ創業者で、ハルナビレッツ株式会社名誉会長の青木清志が、2016年4月18日から6月9日まで全50回が、上毛新聞「心の譜」（経済面）に連載されました。「心の譜」とは、群馬県ゆかりの企業経営者にスポットを当て、その足跡をたどる連載で、出生から連載時に至るまでの半生を描く自伝であり、新聞社の記者が取材を行いご執筆いただきました。地元の方々へのアンブレナシップを創発する機会となり大変な反響を呼びました。

●●● CSV (共通価値の創造) ●●●

CSR のその先へ

■ハルナグループの企業行動指針の基本的使命である「三方よし」の精神を目指して

- ・ CS (顧客の喜びや感動) 買い手よし
- ・ ES (社員のやり甲斐) 売り手よし
- ・ CSR (社会からの支持) 世間よし

ハルナグループは、顧客や社員のロイヤルティ（信頼性・誠実性）を高め、企業の持続的発展の基盤となる CSR（企業の社会的責任）に加えて、ステークホルダー全体とともに社会的課題の解決や経済的価値の創出を目指していくこと即ち、「共益の創造」がこれからの時代ますます重要と考えています。

事業を通じて経済的な成果と社会的イノベーションを長期的に結びつけ、企業責任となる持続可能性と同時に共通価値の創造に取り組み、グループの企業価値の向上に邁進します。

Chief Executive Officer
青木 麻生

ハルナグループは顧客の喜びを通して学び成長することを目的としています。仕事環境を通して、成長していくためには、各担当、各社の間で常に協力と連携をとり、ステークホルダーの皆様の幸せとビジョン達成に向けた具体的な活動であることが大切です。そして、社員全員の努力と成果は、社会に必要とされる企業としての使命であると感じています。業務執行を通し、挑戦し続ける集団へ！ 常にイノベーションと企業価値向上、そして【知行合一】学び行動する企業を目指し、努力精進してまいります。

Chief Operating Officer
中澤 幹彦

志の原点に立ち戻り、課題に対し具体的かつ定量的な指標 KPI を設定し、行動目標に落とし込むとともに、社員一人ひとりに自覚を持たせ行動させていくことが重要であると考えています。そこから生まれるイノベーションで社会的価値と経済的価値を結びつけ、「社徳」ある企業へ挑戦し続けていきます。

Chief Financial Officer
栗原 健一

コーポレート・ガバナンス

ハルナグループ コーポレート・ガバナンスに関する基本方針

■コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

ハルナグループは、「創業の精神」「企業理念」「ハルナグループ企業行動指針」に基づき、持続的な成長と企業価値の向上を図るとともに、公正かつ透明な企業活動を行うために、権限と責任を明確にした意思決定とこれを監視、評価する体制を整備し、より良いコーポレート・ガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組むこととする。

- ①ハルナグループは、株主およびお客様、社員、取引先、地域社会等のステークホルダーの皆様との間において、良好な関係を維持するとともに企業としての社会的責任を果たすためコーポレート・ガバナンスの充実に努める。
- ②ハルナグループは、財務情報等の会社情報の適切な開示を通じて、企業経営の透明性確保に努めるとともに、コーポレート・ガバナンスを創造的に進化させ、企業価値の向上に努める。

■経営理念・ビジョン

ハルナグループの役員・社員は、下記の経営理念およびビジョンを共有し、実現に向けて継続的に取り組むこととする。

●経営理念

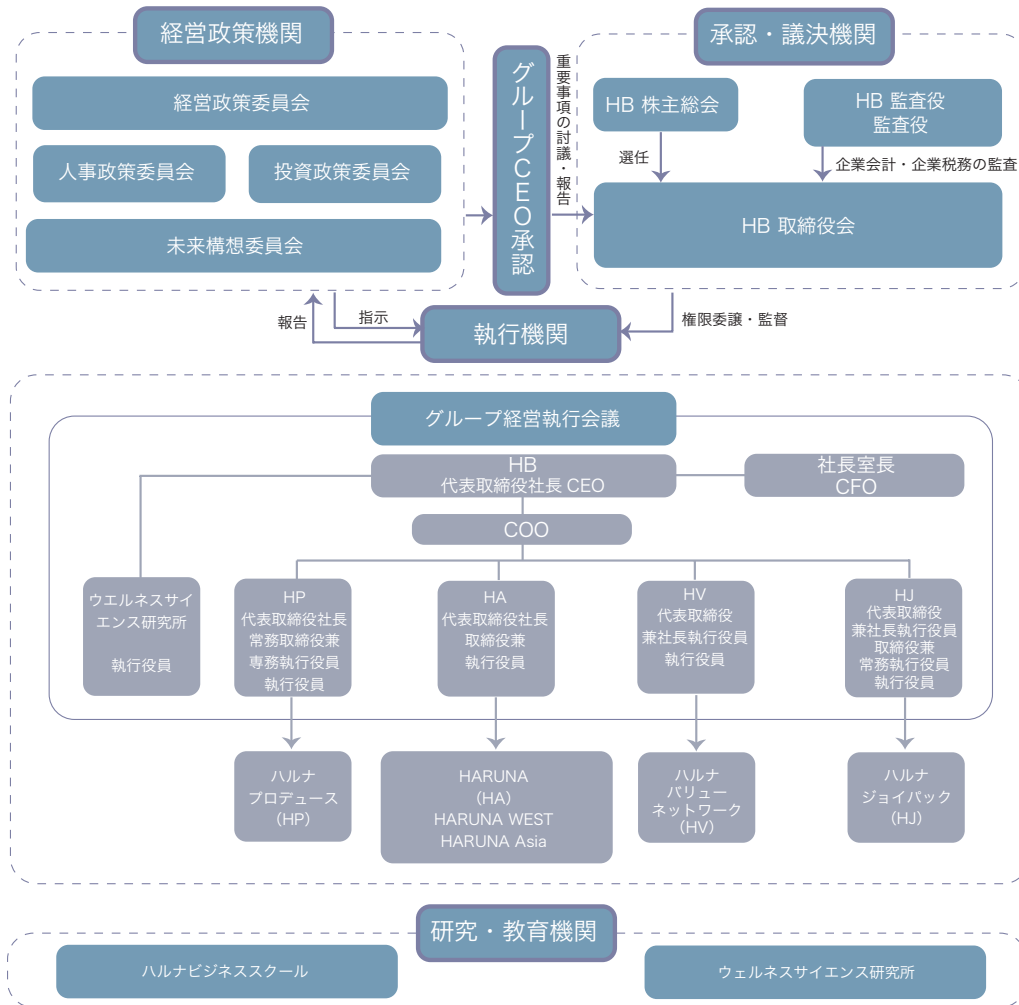
顧客志向を経営の核として
顧客評価に値する品質とは何かを問い
顧客思考を超える製造とは何かを考え
顧客歓喜の果実を己の収穫とする

●ハルナグループの目指す姿

- ・独創性ある飲料プロデューサーとして、ステークホルダーの皆様から大いなる期待と満足を得られる企業へ
- ・顧客満足度最高レベルに向けて・ステークホルダー皆様の幸せに向けて
- ・利益を伴う持続的成長に向けて

ハルナグループはビジョンに掲げた理念の実践のため、ハルナグループ企業行動指針に基づき法令遵守、社会倫理の遵守を全ての役員・社員の行動規範とする。

コーポレート・ガバナンス体制



ガバナンス

～非常勤取締役からの御意見～

中長期的視点でのコーポレートガバナンス



小出 信介 様

ハルナビレッジ（株）元代表取締役社長
小出公認会計士・税理士事務所代表
明光監査法人代表社員

コーポレートガバナンスにとって重要なことは、如何に一つひとつの小さな信頼を積み重ねていくことができるか、を考えていくことだと思います。従業員、顧客、取引先、金融機関、株主、そして地域社会など多くのステークホルダーの方と協働するなかで、どのようにして信頼される行動を積み重ねられるか、それを組織として継続的に追求していくことがコーポレートガバナンスとしての要点であるべきでしょう。

上場会社にはコーポレートガバナンスコードの適用、もしくは説明責任が求められるようになっていますが、そこにおいても多様なステークホルダーとの協働関係と中長期的な企業価値の創出が明記されています。ハルナグループでは創業当初から、そこを念頭に置いた活動をしてきていると思いますので、今後もその理念を承継し発展していくガバナンスが求められていると思います。

～社外取締役からの御意見～



須齋 嵩 様

国立大学法人宇都宮大学客員教授
国立大学法人群馬大学元教授

SRR に寄せて

あの苦闘中の大手 T 電機は、2005 年から CSR を発行していたが、何かが欠け残念ながら絵に描いた餅になってしまっている。

そして最近、“リスクゼロ”の考えが注目されているものの、HACCP の思想で建設されている豊洲市場が危険であるとの説もあるが、海外の見学者を直接せりの場に入れている様子や一説によると鳩等の鳥やネズミが巢食っている築地市場では、どちらが良いのか瞭然としていると思いますが？ 我々の思考を原点に立ち戻って考える場を与えている。

社会的責任を履行する ISO26000 が 2010 年に発行され、2012 年に JIS 化された。また、わが国では、2015 年にコーポレートガバナンス・コードが法制化された。主要内容は、

- ① 株主の権利・平等性の確保
- ② 株主以外のステークホルダーとの適切な協働
- ③ 適切な情報開示と透明性の確保
- ④ 取締役会等の責務
- ⑤ 株主の対話に関する指針

が示されている。当社は、それ以前の 2008 年から先進的に SRR を発行している。例えば、四半期毎にステークホルダーの皆様へ報告会を実施し、情報開示をしている。上記のコードの 5 項目を丁寧に励行していることは評価できる。

今後とも、立案した方針、目標を愚直に、かつ丁寧に完遂していくことだと思っている。



岡 俊明 様

サッポロビール飲料（株）元代表取締役社長
大妻学院理事
日本オリーブ協会理事

これからのコーポレートガバナンス

企業が不祥事を起こす度に耳にするのが、コーポレートガバナンスです。この言葉にこれと言った定義がある訳ではなく、いろいろ解釈されがちです。一言でいえば「健全でより良い企業経営を行うための仕組み」と言っているのかもしれませんが。

これまでのコーポレートガバナンスは、「適法な経営を行うための仕組みづくり」と捉える傾向がありましたが、適法といった法的責任だけで果たして市場から良い会社と評価されるのでしょうか？ 社会にとって真に必要な会社、なくてはならない会社、ないと困る会社を目指してもらいたいものです。

法令順守。社会的責任の最低次元として法的責任があります。ハルナグループは有益な商品、サービスの提供を通し人々の生活に潤いと豊かさに貢献し、その結果、企業パフォーマンスと企業価値向上に資する。適正利益をあげ社会、株主、社員に還元する等、経済的責任を果たすことが大切となります。これら法的、経済的責任を果たして初めて、あらゆるステークホルダーからの信頼される誠実な会社、倫理的責任も果たせることになるでしょう。

さらには、環境対応はもとより公益的活動等の社会貢献活動に一層注力しなければなりません。これらを実現するための仕組みづくりはもとより、経営幹部をはじめ社員一人一人の仕事に対する熱い思い、高い志が何よりも大切かもしれません。

● ● ● ステークホルダーからのご意見 ● ● ●

事業の三要素 「ヒト、モノ、カネ」の重要性

事業の三要素は、「ヒト（人）、モノ（物）、カネ（金）」と言われてきました。会社にとってヒトは、社員（人材）のことです。モノとは商品、製品を生み出す材料、原料のことです。カネは、ヒトを雇用するにしてもモノを買うにしても資金となる資本のことです。どれが一つ欠けても事業の成功は危ぶまれます。

ハルナビバレッジ株式会社を例にとれば、ヒト（社員）については、企業内にビジネススクールを開校し、社員の人材教育に大きな力を注いでおり、優秀な人材を育てています。モノ（物）、製品の原料の水については、非常に恵まれた環境にあり、最高の品質であろうと思います。また、カネ（金）については、四半期ごとに企業報告会を開催し、経営方針、経営内容を株主、金融機関、従業員、取引先等利害関係者にディスクローズしています。

企業は成長していくためには、まず売上を増やさなければなりません。だからと言って、多くの資本を投下し、量の拡大を求めることは、逆に多くのリスクを伴うこととなります。適正な資本で利益を増やすことが大切です。カネ（資本）の効率的な使い方です。製品の付加価値の向上を図ることによって収益力を引き上げることが大切です。優秀な社員を育成し、最高の素材を使い、製品を作ることによって無限の付加価値を生み、企業価値を高めることが可能です。

企業内容をディスクローズすることは、企業としての社会的責任を果たしていくことになり、企業の成長性、収益性、安全性、健全性を確保することにつながります。ハルナビバレッジ株式会社は、創業者・青木清志氏の創業の理念が次の時代に向けての後継者、役員、社員に引き継がれており、改めて敬意を表します。



群馬テレビ株式会社
代表取締役社長
武井 和夫 様

～ご意見をいただいて～

この度はご寄稿ありがとうございました。武井様は群馬銀行時代から今日まで、弊社の報告会等に足をお運びくださり、常日頃よりお心にかけていただき、大変感謝申し上げます。これから弊社も「ヒト」「モノ」「カネ」のバランスをしっかりと取りながら、皆様に信頼していただける企業を目指し努力していきたいと存じますので、これからも末永くよろしくお願い申し上げます。



ハルナビバレッジ株式会社
常務取締役 CFO
栗原 健一

● ● ● ストークホルダーからのご意見 ● ● ●

未来志向の関係としての「共益」

J R東日本グループの飲料会社として発足した弊社は、昨年 10 周年となりました。

お客さまから選んでいただける存在となることを愚直に突き詰めていくことを追い求めてきたこれまでの 10 年を未来につないでいくため、弊社では「変わらぬものをもって、変わっていく」ことで、今日を明日につないでいくこととしました。「変わらぬもの」とは弊社発足時からの理念である「変化を恐れず変革していく」こと、「変わっていく」とは外部環境の変化に対応していくことです。

弊社事業は、関係する会社の皆様との協業なくしては成り立ちません。このことは、これからも弊社が企業として持続し成長していくためには、「共益」の観点が必要不可欠なものであるということです。「共益」とは、用語的には「共同（共通）の利益」の意味となりますが、「共に益する」状況を創り出していくことこそが「共益」であると思います。

10 周年を迎えた今、弊社が今日を明日につなげていくため、弊社にとってルーツとも言える「谷川連峰の天然水」を始めとした商品展開における重要なパートナーとして取引をさせていただいているハルナグループ様とは、今後とも「共益」を生み出す関係であり続けたいと考えています。



株式会社 JR 東日本ウォータービジネス
代表取締役社長
鈴木 浩之 様

～ご意見をいただいて～

今回はご寄稿、誠にありがとうございました。御社との主たる取り組みである「谷川連峰の天然水」事業においても「変わらぬものをもって変わっていく」精神を核とし、ブランドの更なる価値向上に向けて、引き続き様々な取り組みを進めさせていただくことで、御社の次の 10 年の更なる発展を通して「共に益する」関係を深化させていただきたいと思っております。引き続きご高配賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



ハルナプロデューズ株式会社
常務取締役兼専務執行役員 CMO
山崎 敦也

■■■ 環境経営 ■■■

ハルナグループでは、「環境」を経営上の重要なテーマの一つとして、より効率的なエネルギーの利用、産業廃棄物の排出量削減、社会貢献活動を含めた環境経営の活動を積極的に進めております。

現在、地球上では気候変動や公害などの環境問題が大きな問題になっております。ハルナグループでは、地球温暖化にかかわるエネルギー利用の改善を重要な課題と位置づけ、環境への負荷低減の考えからボイラー燃料を重油から LNG や都市ガスへ燃料転換してきました。また、エネルギー使用量の削減にも積極的に取り組み、ボイラーのより効率的な運転への改善、蒸気を使用する熱源からの放熱ロス削減対策、生産機器の運転効率の改善による電力使用量の削減、高効率な電力機器への更新などを行っております。

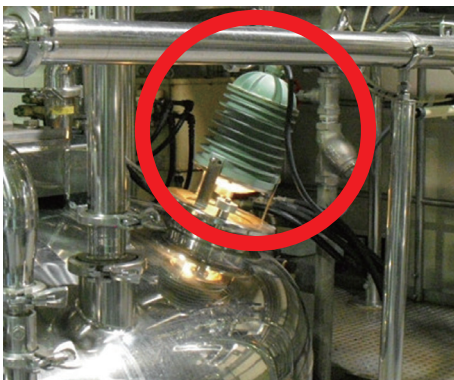
今後も環境に配慮した生産活動の推進に向け、社員一丸となって取り組んでまいります。

2016 年度に行った主なエネルギー使用改善対策の取り組み

■ 電力使用量等の削減

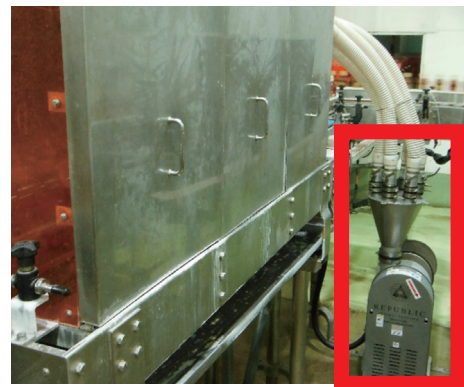
■ 各種タンク用照明の LED 化

各種タンク用の照明を LED に変更することによる電力使用量の削減を実施。



■ 水滴除去装置ブロアエア化（第2プラント）

第2プラントにおいて、エアブローを導入し水滴除去装置で使用するエアをコンプレッサーエアからブロアエアにすることによる電力使用量削減を実施。



■ 抽出器制御変更による純水・井水の節水化

第3プラントにおいて、抽出冷却工程の制御変更（純水・井水）することによる電気・水使用量削減を実施。



■ ボイラー制御変更による効率化

ボイラーにおいて、運転台数を減らすことによる電気使用量削減及びボイラー効率アップを実施。

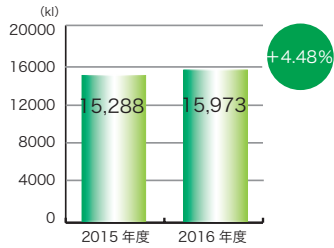


環境会計 〈2016年度の実績〉

※ハルナプロデュース・ハルナジョイバックのプラントの合計値です。

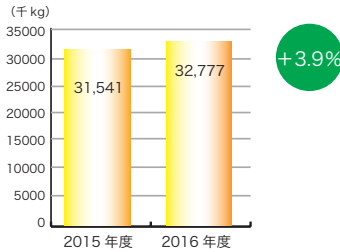
インプット

■エネルギー原油換算 電力・LNG・都市ガス・灯油

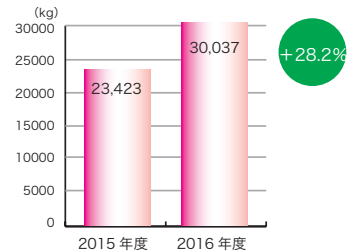


アウトプット

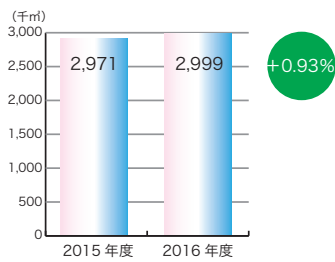
■二酸化炭素 (CO₂)



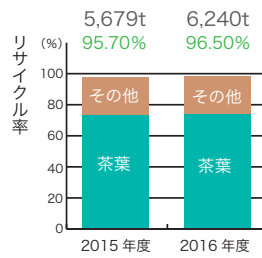
■窒素酸化物 (NO_x)



■水資源



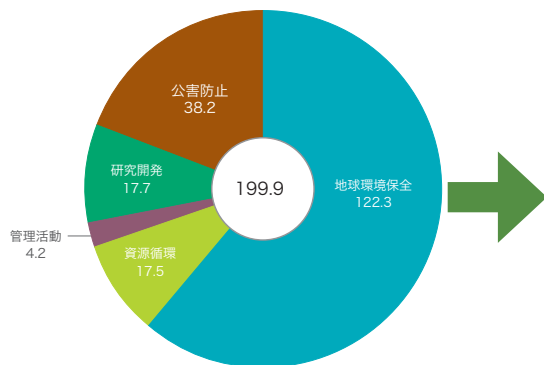
■排出物



※その他には、金属、紙類、硬質樹脂容器、ドラム缶・一斗缶、ペットボトル、可燃物・不燃物、フィルム樹脂・PPバンド、段ボール、汚泥、珪藻土が含まれます。

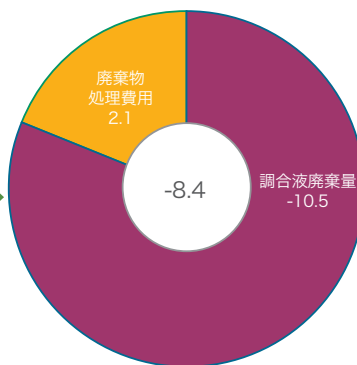
■環境保全コスト

(単位：百万円)

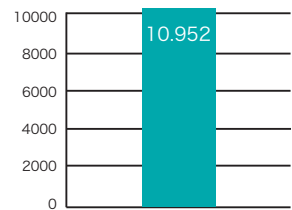


■環境保全効果の金額換算

(単位：百万円)



■CO₂ 排出量 (単位：千円)



■NO_x 排出量 (単位：千円)

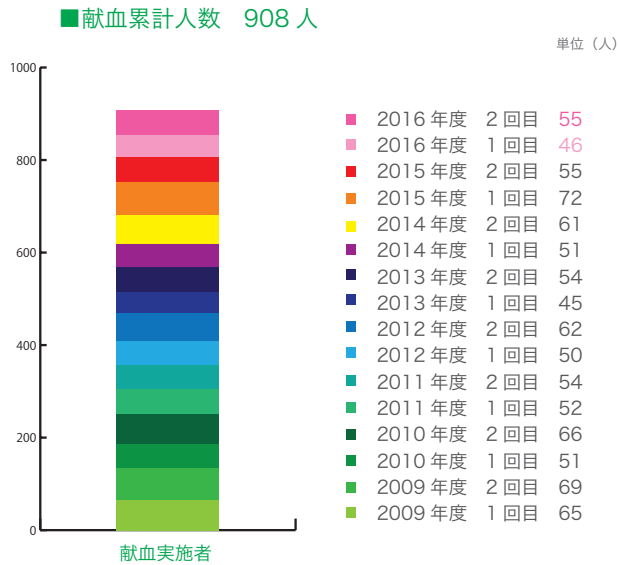


※上記共に、原単位当たりの使用量から算出しています。

2016 年度社会貢献報告

献血活動

2009 年度から群馬県赤十字血液センター様のご協力のもと、献血車による献血活動を開始し、2016 年度までの累計で 908 人の献血を実施いたしました。今後も定期的が続けていきます(2015 年度からはハルナジョイパックも参加しています)。

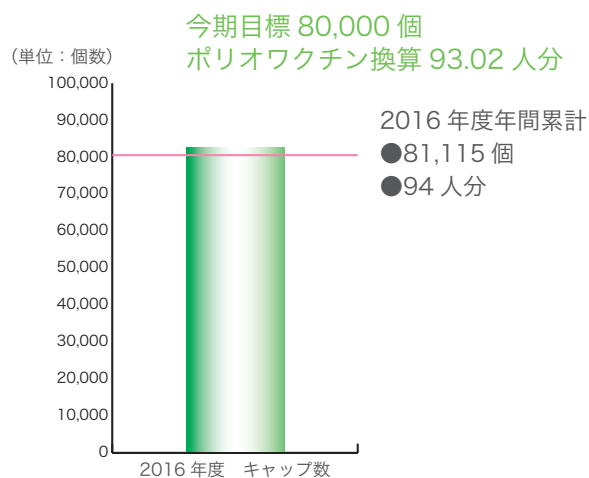


献血の功労 (回数) に対して、日本赤十字社様より記念品が渡されます。タニガワPで 10 回に到達した方の記念品。



エコキャップ推進活動

ペットボトルのキャップで、世界の子供たちを病気から守るエコキャップ活動に参加しています。2016 年度までの累計で 574,844 個のキャップを NPO 法人エコキャップ推進協会に寄付いたしました (キャップ 860 個でポリオワクチン 1 人分)。



2009 年から「NPO 法人エコキャップ推進委員会 (ワクチンで支援) を始めて、累計で 574,844 個寄付しました!

■地域清掃活動

ハルナグループでは、CSR活動として地域社会に貢献する取り組みを行っています。地域環境保護の一環として、河川や用水路の清掃活動もそのひとつです。全社員で工場周辺の川などのゴミ拾いといった清掃を定期的に行うことで、周辺地域の美化に努めています。



■榛名山ヒルクライム in 高崎に協賛

ハルナグループの創業の地・榛名地域にて、毎年春に開催される榛名山ヒルクライム in 高崎に第1回から協賛をしています。群馬県榛名山の特性を活かした自転車競技を通じ、高崎市を広く全国にアピールするとともに、地域住民のボランティア等への積極的な参加、協力による地域の一体感の醸成の下、活力あるまちづくりをめざすことを目的とした競技会で、地域の活性化を推進しています。



■群馬ダイヤモンドペガサス スポンサー契約

プロ野球独立リーグ「ベースボール・チャレンジ・リーグ」に所属する群馬県のプロ野球チーム群馬ダイヤモンドペガサスのスポンサー契約をしています。加盟された2008年からスポンサー契約を続け、チームは6期連続半期優勝(2016年現在リーグ最長記録)を含む3年連続地区優勝、4年連続地区チャンピオンシップ出場を達成したチームとなりました。ハルナグループはプロスポーツ文化を通じて地域の活性化に貢献し、今後も幅広い領域で協力関係を築いていきます。



ワーク&ライフ・バランス 未来構想委員会の取り組みについて

仕事と生活を共存させながら、持っている能力をフルに発揮し、それぞれが望む人生を生きることを目指し「より良い暮らしの為に、より良い政策を」をテーマに2015年10月に発足した未来構想委員会は、4月に1年半を迎えました。この機会にプロジェクトのリーダーが集まり、これまでの経緯を振り返るとともに今後の具体的な取り組みについて話し合いました。(2017年4月、群馬本社・創業記念館にて)

●藤井 青木清志会長（現、名誉会長）のかけ声の下、「より良い暮らしの為に、より良い政策を」を旗印に、一昨年の秋に始まったこの活動も、ここでひと区切りを迎えました。最初に行いました全社員アンケートでは、元気なうちはいつまでも働きたいと答えた方が大半を占め、今後、定年制の見直しの必要性を感じる中で、リタイヤする時期を自分で決められる制度を目指し、これまで24回の会議を重ねてきました。その間、リーダーの皆さんには、多くの時間を割いていただき、成果を上げることができました。本当にお疲れ様でした。このプロジェクトの中でも、最初に議論に取りかかったのは、食と健康の部分でしたね。

●邑上 プロジェクト開始早々に、青木会長から、社員の皆が体力を維持し、ずっと仕事を続けるためには食が何より大事で、ぜひ最初に取りかかりたいとお話があり、リーダーとして参加させていただきました。

●藤井 ひと言で、食と健康と言ってもなかなか難しかったのではないですか。

●邑上 今回はプロジェクトチーム、また各社の皆さんの協力に、非常に助けられました。高崎地域の弁当の委託先については、10社以上に問い合わせを行い、2社に絞りました。最終選考については、メンバー全員で試食会をしたのですが、結果は、真二つに割れてしまいました。どちらも合格レベルだったと思います。みなかみ、和歌山についても、担当の方に試食会を催していただき、決めることができました。

●藤井 昼食の変更に合わせて、食事補助も始まりましたね。

●邑上 こちらも非常に苦労しました。会社でお弁当を注文する人、自宅でお弁当を作ってくる人、コンビニで買ってくる人など様々いる中で、どういった基準とするか、意見が分かれまして。最後は、会社でお弁当を注文する人と、自宅からお弁当を作ってくる人に補助することを会社にお願ひし、実施していただけることになりました。

●藤井 食事以外にも、健康に対する取り組みをされたと思いますが。

●邑上 委員会の中で、禁煙について議論しましたが、全面禁煙という意見がある一方、急にやめると弊害があるという意見もありました。最終的には、今年の10月に全社完全禁煙とする方向になりました。

●小池 禁煙教育については、保健所の方をお呼びして勉強会を開いてもらいましたので、多くの人が話を聞くことができました。

●松尾 食事以外に、社員の体力を維持するためには、工場の作業環境の改善が急がれます。特に、作業場は夏場は非常に暑く、体力の消耗をしてしまいます。

●相川 暑さ対策と言っても、そう簡単ではないのでは。

●松尾 エネルギーコストの問題もありますので、単純にエアコンを入れるというわけにはいきません。電気代だけでとんでもない金額になります。そこで最初に考えたのが、熱の発生源をうまく抑え込んだ上で、空気の流れを改善することや、エネルギーの再利用でした。まずは、私の受け持っている高崎の第3プラントに導入した上で、他のプラントにも展開することにしました。

●小池 私も実際に現場を回って、いろいろ考えてみました。設備投資も必要になりますので、調整して何とか実現に結びつけたいと思います。

●邑上 我々は、体の部分のアプローチをしてきましたが、他にも仕事を続けていく上で、意欲とスキルが必要と言うことで、取り組みをされたと思いますが。

●小池 社員へのアンケート結果を見て、資格を身につけたいという人が思いのほか多いと感じました。現在、プラントでは資格取得スケジュールに基づき、計画的に受験、受講をしてもらっています。他の部署にも同じように進めてもらった方がよいと思います。併せて、資格手当などの制度についても見直しが必要だと思います。

〈参加者〉

藤井 満…ハルナビバレッジ株式会社常務執行役員（グループ人事総務本部長）
相川浩之…ハルナビバレッジ株式会社人事・総務 Unit（マネージャー）
小池賢司…ハルナプロデュース株式会社執行役員（製造本部長）
邑上豊隆…ハルナプロデュース株式会社執行役員（グループ商品開発本部長）
松尾正人…ハルナプロデュース株式会社生産本部（プラントマネージャー）



●藤井 40歳を区切りとして、若いうちは、将来のキャリアアップのプランを考え、そこを超えたら、一度自分のキャリアを棚卸しして、改めて将来を見つめ直してもよいのではと思います。そのために、現在の人事考課や目標管理制度を見直し、トライアルを行い、4月からの実施にこぎ着けることができました。また、老後の経済面の不安も多く、これについては、7月からの確定拠出年金制度の導入を踏まえ、専門家を招いて各地で年金講習会を開催し、投資についても学びました。

●相川 年金講習会に私も参加させていただき、専門の方のお話を聞くことができました。老後に向けての準備は、少しでも早く始めることが大事と感じました。

●藤井 ところで、途中から始まった活動がバリュートイムですが、これはなかなか難しい問題だったでしょう。

●相川 個人が価値ある時間を過ごすために、現状では自由にできる時間が少なすぎると思います。そこで、まず、世間一般の残業時間を調査して、それをベンチマークとして、各部門別に目標残業時間を決めることから始めました。その後、各部署から残業が発生する原因について、様々な課題を出してもらいました。

●藤井 具体的には、どのような取り組みでしたか。

●相川 青木会長から、現状をコア時間と非コア時間に分けて考えてみたら？とご指導いただき、調査してみました。その結果、問題点が見えてきました。全社で取り組む内容と、各所属で取り組む内容を分けて進めています。例えば、フレックス制度を活用していくことや、社内の連絡、承認、スケジュール管理などへのITの活用について優先して進めています。

●藤井 1年以上の長い期間、活動に参加していただき、ありがとうございました。最後に、皆さんにひと言ずつ感想をいただけたらと思います。

●邑上 今回プロジェクトを遂行するにあたり、各社の社員の皆様に大変ご協力いただきました。誠にありがとうございました。プロジェクトは会社のためではなく、社員一人ひとりの業務、生活の質の改善を目的としています。全

員がこのプロジェクトに興味を持っていただき、積極的に参加していただくことで、さらにより良い内容になると思います。

●小池 ワークライフバランスというとても大きなテーマの下、何ができるかを考え取り組んできたのが今回のプロジェクトです。社員一人ひとりが安心して仕事を続けることができ、家庭生活を送っていくために会社として何ができるのか、これだけ真剣に考え進めていることは、社員としてもこの会社とともに成長したいという意欲にもつながっていくのではないのでしょうか。社員と会社の幸せのためにも、この活動は継続して取り組んでいきたいと思えます。

●松尾 従業員の作業負担軽減を目的として、環境設備チームでプロジェクトに参加しました。工場内での夏場の暑さ対策が急務であることから、様々の方面の皆様方の協力と力添えをいただき、改善プランを作成することができました。職場環境改善に終わりはないと思えますので、今後においても継続した取り組みを行いたいと思えます。

●相川 今回のプロジェクトでは、私たちの「こうしたい！」「こうであったらどうか！」というぼんやりとしたまだ姿・形のない願望、希望、そして仮説が、議論を重ね深掘りしていくことで、何らかの形に具現化することができました。現在地は目指す方向が見えた、いわばスタートラインに立った状態です。これからは、目指す方向にどのくらい進めたのか、社員一人ひとりが手応えを感じながらこのプロジェクトの「成果」を感じていきたいです。

●藤井 これから、政策提言のとりまとめに入ります。提言には、より具体的な内容と実施スケジュールを織り込む必要があります。もうしばらくの間、リーダーの皆様にはお付き合いをお願いしたいと思います。

最後に、アドバイザーとして、貴重なご意見、様々なアイデアをいただきましたハルナプロデュース株式会社の中澤幹彦社長、古市直也常務取締役には、委員を代表して感謝申し上げます。

（了）

社員とともに

～いきいきと健康的に働ける会社へ～

ハルナグループでは、会社の成長は社員の成長の上に成り立つと考え、社員一人ひとりの個性や異なる発想・価値を受け入れ、それぞれの人材がその能力を十分発揮しながら、成長できるようにさまざまな取り組みを実施しています。

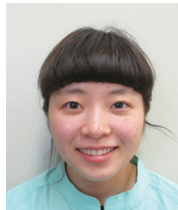
2017年春には、9名の新規卒業者が入社いたしました。新入社員研修では、全社員が共有すべき「ハルナグループ企業理念」および「ハルナビジョン」を胸に、目指すべき方向をともに理解し、お客様の気持ちに寄り添い、よりよい商品を提供できるように素地を身につけました。研修後は、グループの仲間のひとりとして、各職場で羽ばたいています。

(※年齢は2017年6月21日現在)



ハルナプロデュース(株)
製造 Unit 所属
飯嶋駿矢さん (20歳)
大原簿記学校
経理本科2年制学科卒業

今回、新入社員研修に参加し、挨拶や声掛け、ルールを守ることが、働く社員、自分や仲間の安全対策につながっていることを学びました。早く一人前に成長し、会社に貢献できる人材になること、そして、当たり前前を当たり前前にできる社会人になりたいです。



ハルナプロデュース(株)
品質 Unit 所属
金井朋希さん (18歳)
群馬県立渋川青翠高校
総合学科卒業

今回の新入社員研修を受け、私が配属となる品質管理では、菌の種類、検査の仕方、微生物の汚染の防ぎ方など想像していなかったことまで知ることができました。まだまだ覚えなければならないことがたくさんありますが、同期の仲間とともに成長し、グループに貢献していけるように努力していきます。



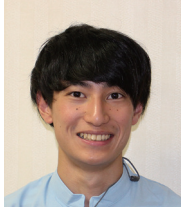
ハルナプロデュース(株)
営業 Unit 所属
株本萌子さん (22歳)
大阪産業大学人間環境学部
文化コミュニケーション学科卒業

新入社員のためにご多忙なか、役員や工場長の方々のお話を伺う時間を設けていただいたこと、各プラントを見学し、貴重な体験をさせていただいたこと、とても感謝しています。新入社員研修は短い間でしたが、一生に一度の同期と同じ時間を過ごすことができました。各部門へ配属後は会える機会は少なくなりますが、この繋がりを大切にします。ありがとうございました。



ハルナプロデュース(株)
製造 Unit 所属
桑原知洋さん (19歳)
群馬県立渋川青翠高校
総合学科卒業

今回のような「研修」に参加をさせていただくのは初めてであり、どのようなことをするのか、とても不安な気持ちでいっぱいでした。研修に参加して、社会人としてスタートしたという実感がわきました。学ぶべきことも多く、初めてのことでありますが、様々な経験を積み、早く活躍できる人材になりたいです。



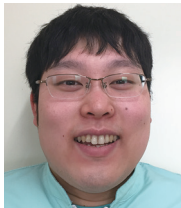
ハルナプロデューズ(株)
製造 Unit 所属
竹渕昌希さん (18歳)
群馬県立沼田高校
普通科卒業

新入社員研修を終え、製品ごとに配分の違いやラインの立ち上げ方など、覚えることも多いですが、入社前とのギャップもなく勤務しています。お客様の口に直接入る飲料製造業として衛生管理の基礎や徹底方法、工程管理など様々なことを吸収し、会社に貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。



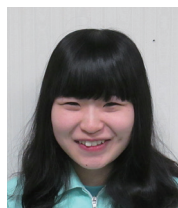
ハルナプロデューズ(株)
品質 Unit 所属
橋本弥和さん (22歳)
北里大学獣医学部
生物環境科学学科卒業

研修カリキュラムの中で、「目的意識を持つ重要性について」というテーマがあり、自分の目標を持ち、その目標を書き出すことによって常に目標を意識でき、今なすべきことを明確にできることを学びました。これを受け、自分も目標を具体的に期限を設けて書き出し、意識したところ、日々の生活や働き方がより明確になりました。これからも目標を意識し、働いていきたいです。



ハルナプロデューズ(株)
製造 Unit 所属
古川雅貴さん (25歳)
中央情報経理専門学校
情報経理学科卒業

私は、新入社員研修を受けて、働いていく上でコミュニケーションを誰とでもとれることが特に大切なのだと改めて分かりました。まだ社会人としては未熟ですが、新入社員としての心構えを持つことができました。今まで研修で学んだことを糧に仕事に臨んでいき、さらに仕事を通して多くのことを勉強して成長し、これから会社で勤めていく中で自分の役割やできることを見つけていきたいと思っています。



ハルナプロデューズ(株)
製造 Unit 所属
柳澤あいかさん (18歳)
群馬県立中之条高校
生物生産科卒業

1週間という長いようで短い新入社員研修が終わり、製造部門に配属になりました。年齢の違いや、体力の差などで悩むこともありますが、講義の中で学んだ3つの目標 (①体調管理をしっかり行う、②怪我をしない、③とにかくやってみる) を持って自分らしく一生懸命働き、会社に貢献していきたいです。



HARUNA (株)
営業 Unit 所属
小林優希さん (22歳)
東京情報大学総合情報学部
総合情報学科卒業

今後、商品を企画する、営業をするにあたって、工場の現場を見ることや当社が何をしっかりと理解することが、細かい場面で大切になっていくと考えています。今回、皆さんがお忙しい中、私たちのためにこの新入社員研修を行ってくださったことを嬉しく思います。研修で学んだこと、見たこと、感じたことを今後しっかりと活かせるように業務を励みたいと思います。

ハルナグループの未来を創る人財たち



ハルナビバレッジ(株)
人事・総務 Unit
マネージャー
相川 浩之

ハルナグループでは「意欲」と「可能性」に満ちた9名の「ハルナグループの未来を創る人財」仲間入りしました。内定者研修、新入社員研修と回を重ねていく中で、役員をはじめ、様々な部門の先輩から学び、グループの全体像と配属された部門とのつながりを認識しながら成長していく彼らの姿を見て、人事担当として今後の活躍を非常に楽しみに感じています。まだまだ未熟な彼らですが、大いに迷いながらも成長していけるよう、他の社員同様引き続き、温かくも厳しいご指導の程、よろしく願いいたします。

● ● ● ウェルネスサイエンス研究所 ● ● ●

創 業	2007年4月1日	
所在地	〒370-3531 群馬県高崎市足門町39-3 TEL：027-372-1230 FAX：027-372-1255	
事業内容	機能性原料の製品化設計・試作 機能性素材・原料の研究開発 機能性分析と解析	
役 員	理事長 所長 顧問	青木 麻生（ハルナグループ CEO） 邑上 豊隆（農学博士） 池永 裕（農学博士）

ウェルネスサイエンス研究所は、ハルナグループの将来を見据え、自由な発想のもと、新しい価値を創造することを目的とする研究機関であります。社会的インパクトが高く、社内外に大きな影響をもたらすことができる組織として活動して参ります。

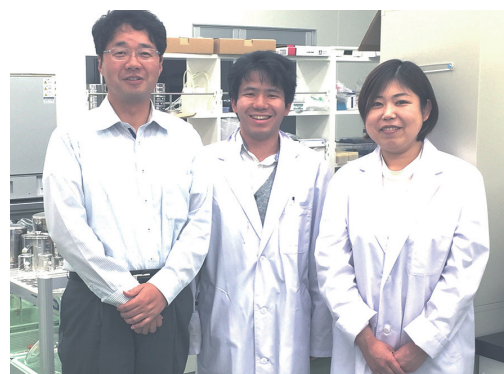
2016年度研究事業内容

■ ORAC（Oxygen Radical Absorbance Capacity）測定法を用いた抗酸化原料の探索

ヒトの老化や物質の酸化は、自然界に存在する酸素（活性酸素）により引き起こされると言われております。これら酸化を抑制する原料は、健康をキーワードとした市場での利用価値が高く、未来原料として有益であります。2016年度169検体を測定し、特に抗酸化作用が高い原料を導き出しております。

■ 蛍光測定法を用いた抗糖化原料の探索

糖化とは、タンパク質と糖質が消化される際に、反応過程で凝集物としてヒトのカラダの中に蓄積し、老化を起こさせる現象であることが言われております。それらを抑制する抗糖化原料の探索は、抗酸化原料と同様に健康をキーワードとした市場での利用価値が高いと判断しております。2016年度78検体を測定し、特に抗糖化作用が高い原料を導き出しております。



2017 年度 研究事業内容

■ 菌を抑制する天然物原料の探索

ペットボトル容器における茶系などの中性飲料（pH）は、菌の制御が重要となります。それら菌を抑制する天然物原料は少なく、新規原料を見つけだすことは利用価値が高いものとなります。本年度、これら原料の探索、研究を行い、商品に使用できる環境を整えます。

■ 機能性表示食品、特定保健用食品の研究開発

健康食品に位置づけられる、機能性表示食品や特定保健用食品の数は著しい増加傾向にあります。高齢化社会への対応とした機能性表示食品の研究、商品化に取り組んで参ります。

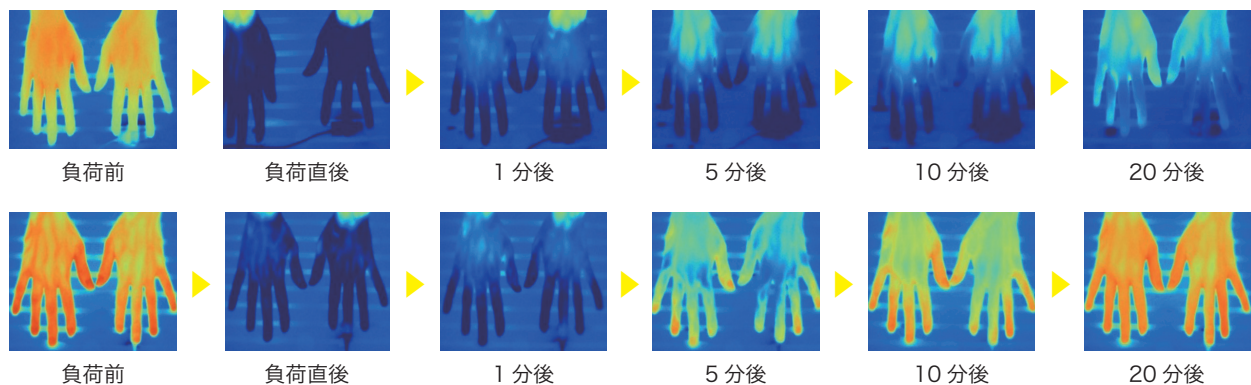
■ 抗糖尿病予防飲料の開発

食環境の影響で、年々糖尿病の患者数が増加しております。日本だけでなく世界的にも同様な傾向にあるため、これらに対応した抗糖尿病予防飲料開発のための研究を進めて参ります。



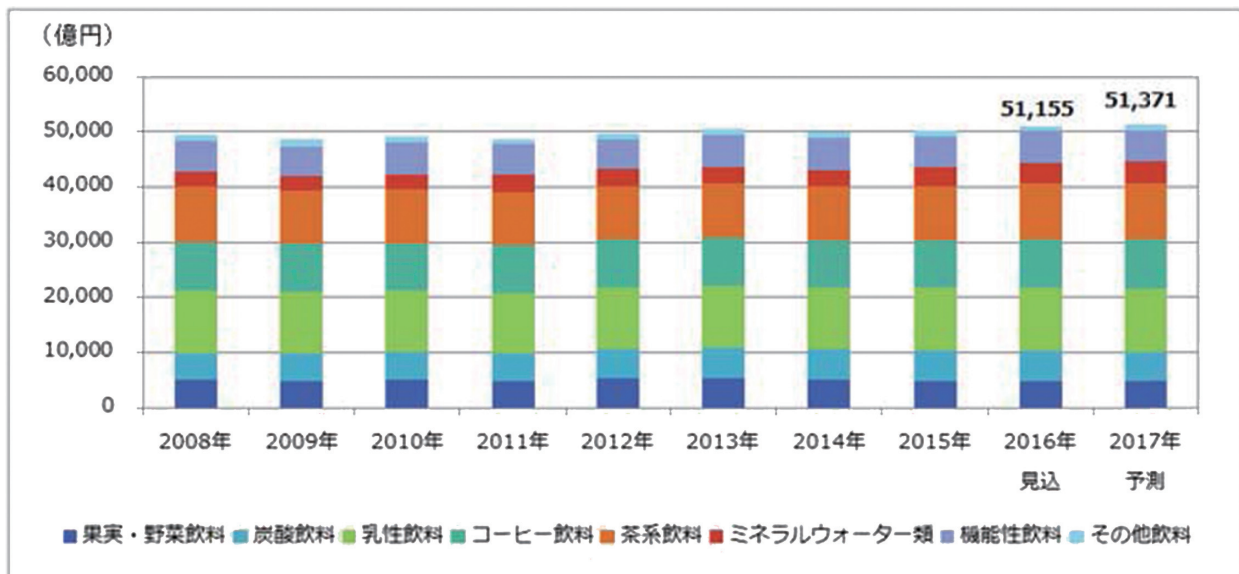
■ 抗酸化原料および抗糖化原料の探索の継続研究

〈冷水負荷後の皮膚表面温度の経時的変化の比較観察データの例〉



海外事業の取り組み

日本の飲料市場は2016年度およそ5.1兆円とされています。しかし、過去10年の市場成長は比較的他の業界と比べ安定的であるとはいえ、1～3%前後の成長率しかありません。さらに少子高齢化・人口の減少により、年々減少すると予測されます。



ハルナグループでは、現在もナショナルブランド・プライベートブランド（以下：PB）商品共作を中心に事業性を高め、これまでの挑戦をさらに強固にし、今後も高めることが重要と考えますが、市場の縮小、製造コストの上昇、天災等、日本にも大きなリスクがあるのが現実といえ、さらに厳しい市場環境になります。

また、ビジネスモデルも時代により変化が必要であり、将来を見据えまったく新たな挑戦に舵を切り、新たな商品をもって新たな市場を開拓することを目指しました。

まず、国内で自社商品と優れたセレクトブランドを持ち、OEMの経験と自社商品等の経験をこれからさらに大きく伸びる市場で創り出すことをミッションと位置づけ、スタートしております。

ハルナの現在の事業内容は、ある程度整ったインフラとモダントレードの小売環境がないと商いとしては困難と思われます。チャイナ・プラスワンと謳われてから約2年後の2010年後半頃から構想し、新興するアジアに新しい活路を見出すべく中国をはじめ東南アジア各国へ営業を行い、2012年頃から注力することとなりました。

その営業の中で、タイ王国（以下：タイ）にて具体的な大手のお客様との共同開発のチャンスを作り、タイをハブに事業を広げていく構想に至り、2013年4月にバンコクで Haruna Asia (Thailand) 株式会社を開設いたしました。

通常現地パートナーおよび日本の商社等と組んで進めるパターンが多いなか、自分の足で土地を歩き、見て、聞くことが将来の試金石になるとの考えで独資をスタート。顧客、現地原料・資材メーカー、工場をゼロからネットワーク構築していきました。

この3年間、走りながらの構築で大手PBを3商品（タイ全土）、コーヒーチェーンPB 3商品（タイ全土）を作ることができましたが、事業的には厳しい状況は変わりませんでした。

2017年度は、このタイでの3年間と日本で培った技術・ノウハウ・情報を融合し、現地パートナーと経営統合して経営面と業務面で現地化を行い、新たにスタートを切ります。2016年度より自身も現地駐在を開始し、さらに一段階、二段階と深く根につけるよう、PBと新たな自社商品・セレクト商品を創出し、お客様をはじめタイおよび近隣国に微力ながら貢献を目指し、ハルナグループの価値をさらに高めていく所存です。



■ ■ ■ 食品安全への取り組み ■ ■ ■

2016 年度に行った主な取組み

■ FSSC22000 認証取得への取組み

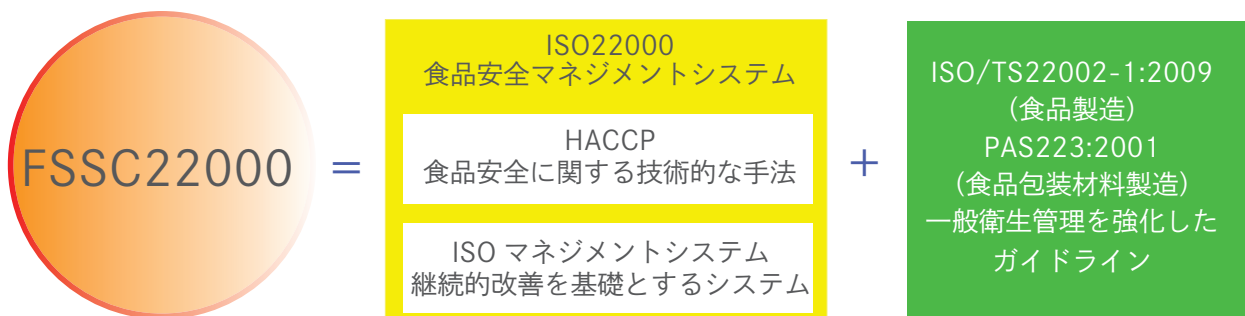
2006 年に群馬県高崎市にあるハルナプラントにおいて、総合衛生管理製造過程（HACCP）承認を取得し、製造ラインの衛生と製品の安全性に継続して取り組んでおります。その取り組みを基本として PDCA をまわし、より良い環境づくりと仕組みを構築していくことで、2015 年にハルナプラントで食品安全マネジメントシステムのグローバルスタンダードである FSSC22000 の認証を取得しました。

グローバルスタンダードの FSSC22000 の認証取得はグループ全ての工場で取得を目指し、ハルナプラントにおける認証取得の翌 2016 年には、群馬県みなかみ町にあるタニガワプラントでも認証取得を実現しました。引き続きハルナグループは FSSC22000 に取り組んでまいります。

総合衛生管理に基づいた取り組みおよび、食品安全マネジメントシステムをグループ全体で取り組むことで、飲料の製造工場として安全性を確保し、今後も継続してより良い製品づくりに取り組んでまいります。

FSSC22000 とは？

食品安全マネジメントシステムの国際規格である ISO 22000 と、それを発展させた ISO/TS 22002-1（または ISO/TS 22002-4）を統合し、国際食品安全イニシアチブ（GFSI）が制定したベンチマークの承認規格です。世界の大手食品流通様や大手食品製造企業様が取引先に認証取得を求めているグローバルスタンダードです。



ハルナプラント
認証と集合記念写真



タニガワプラント
認証と集合記念写真

■セキュリティ強化対策における指紋認証設備の導入

ハルナプラント、タニガワプラントにおいてセキュリティの強化を目的に指紋認証設備を設置しました。製造場へアクセスできる扉に設置することで、指紋認証登録者のみが製造場へアクセスすることが可能、外部から製造場へのアクセス制限をさらに強化しております。本設備は、入室した扉と時間や人物特定が指紋認証履歴（通行履歴）として制御システムに残ります。

設備導入により工場と製品の安全性をさらに高めることができ、外周の防犯カメラやマネジメントシステムである FSSC22000 の運用管理との相乗効果で、より安全な製品をお届けし続けます。また、ハルナジョイパックにおいても、2017年中に同様設備の設置に向け準備を進めており、マネジメントシステム同様にグループ全体で統一した考えで食品安全に取り組んでおります。



指紋認証設備



設備設置例

通行日時	通行内容	個人番号	氏名	扉番号	扉名称	通行原因
2017/09/29(水) 11:11:56	入室	0010049	...	0102	品質保証本部 入口	指検来
2017/09/29(水) 11:07:34	入室	0010052	...	0103	製造本部 受付入口	指検来
2017/09/29(水) 11:06:52	入室	0010159	...	0102	品質保証本部 入口	指検来
2017/09/29(水) 11:06:53	一時解除		...	0102	品質保証本部 入口	検点入力
2017/09/29(水) 11:03:37	入室	0010300	...	0102	品質保証本部 入口	指検来
2017/09/29(水) 11:01:19	一時解除		...	0102	品質保証本部 入口	検点入力
2017/09/29(水) 10:54:56	入室	0010159	...	0102	品質保証本部 入口	指検来
2017/09/29(水) 10:53:29	一時解除		...	0102	品質保証本部 入口	検点入力
2017/09/29(水) 10:47:57	入室	0010047	...	0104	第二機台入口 貯室	指検来
2017/09/29(水) 10:45:31	一時解除		...	0104	第二機台入口 貯室	検点入力
2017/09/29(水) 10:41:47	入室	0010105	...	0103	製造本部 受付入口	指検来
2017/09/29(水) 10:12:54	入室	0010219	...	0104	第二機台入口 貯室	指検来
2017/09/29(水) 10:12:50	一時解除		...	0102	品質保証本部 入口	検点入力
2017/09/29(水) 10:09:29	一時解除		...	0102	品質保証本部 入口	検点入力
2017/09/29(水) 10:07:48	一時解除		...	0104	第二機台入口 貯室	検点入力
2017/09/29(水) 09:57:49	一時解除		...	0102	品質保証本部 入口	検点入力
2017/09/29(水) 09:57:35	入室	0010578	...	0104	第二機台入口 貯室	指検来
2017/09/29(水) 09:45:27	一時解除		...	0101	工場 出入口	検点入力

指紋認証設備の通行履歴例

■ ■ ■ ビジネススクール ■ ■ ■

～人財育成の取り組みと12年間の実績～

ハルナグループでは、創業時より、企業価値を生み出す人財の育成にこだわり、力を注いでまいりました。そして、体系的知識の習得と自分の専門分野以外の見識を高めることを目的として、2005年4月にビジネススクールを開講し、12年間続けてきました。各階層において求められる共通のスキル・能力を習得する階層別教育、具体的な経営課題の解決に必要な専門的スキルの習得を目的とする経営者養成コースなどの講義を開催。また、自らを学ぶ社員をサポートする自己啓発の支援と、社員の能力開発と育成を行っています。

2016年度カリキュラム

■ 経営者養成コース

開講日	講師	テーマ
4月	青木 清志 ハルナグループ名誉会長	リスク・レジリエンス
5月	中澤 幹彦 ハルナプロデュース社長	マイナンバー制度について
6月	池永裕 氏 研究所顧問（農学博士）	基礎研究及び商品開発
7月	須齋 嵩 氏 社外取締役、群馬大学元教授	LOT
8月	青木 清志 ハルナグループ名誉会長	飲料市場の最新の動向と将来展望
8月	青木 清志 ハルナグループ名誉会長	10年後のハルナの時代を構想する
10月	中澤 幹彦 ハルナプロデュース社長	経営者の心構え・あり方
11月 ウインター スクール	須齋 嵩 氏 社外取締役、群馬大学元教授	法則を知り、事業活動に生かそう
	岡 俊明 氏 社外取締役、サッポロビール飲料株元社長	目指そう 会社を強くするブランドづくりを
	小出 信介 氏 非常勤取締役、小出公認会計士税理士事務所代表	"ハルナグループの経営戦略・コーポレートガバナンスについて"
	麻生 麻生 ハルナグループ CEO	グループ経営構想
12月	青木 清志 ハルナグループ名誉会長	100年企業の実現へ歩みだそう
12月	中澤 幹彦 ハルナプロデュース社長	未来構想に向けた経営について
1月	㈱インターリスク総研社	危機管理 事業継続計画（BCP）について
3月	青木 清志 ハルナグループ名誉会長	"未来構想 豊かさには、光と影がある"
4月	常盤 文克 氏 花王㈱元会長	楢岡思考で考える 経営の哲学

■ 中堅社員コース

■ プライマリーコース

■ 特別コース（ハルナジョイパック）

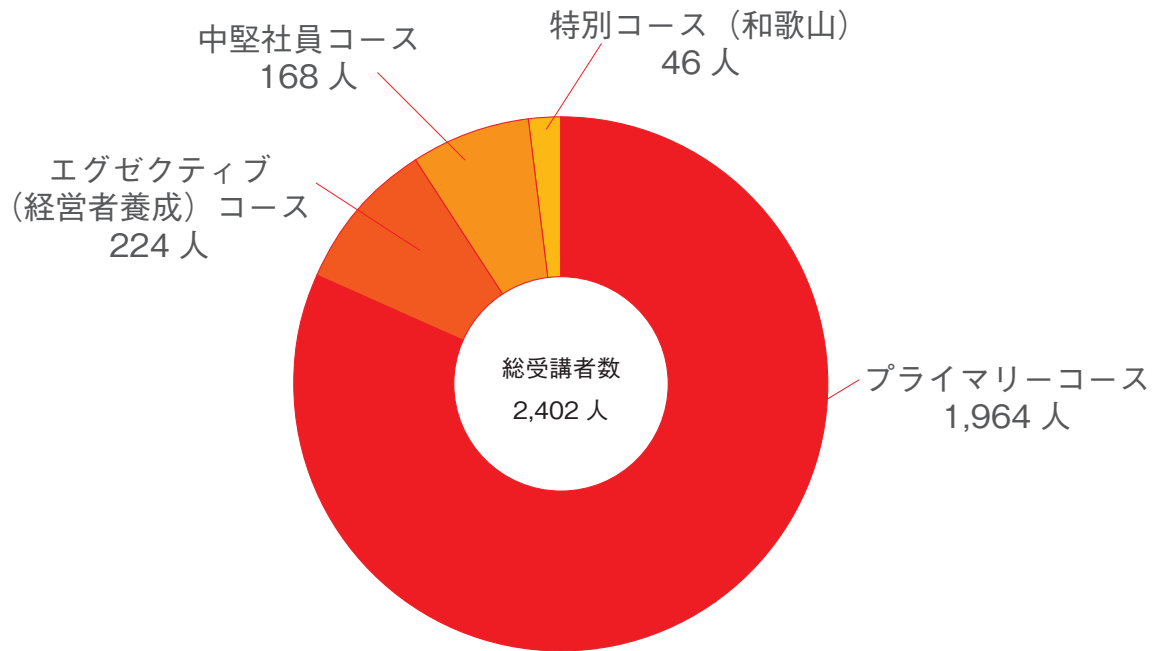
テーマ	テーマ	テーマ
4月 仕事で感動をつくらう（顧客は感動から）	FSSC22000（FD含む）について	顧客が満足するサービスとは
5月 商品開発について（商品開発を効果的に行うには）	微生物、アレルゲン、食中毒について	能力を生かす人財論
6月 マイナンバー制度について	労働安全（熱中症、AEDなど）	経営能力の伸ばし方
7月 労働安全について（労災をなくすには）	省エネについて	経営者のリーダーシップ
8月 関係法規について（環境、品質）	5Sの重要性について	経営担当者の心構え
8月 たばこと健康について	改善活動について（PDCAサイクル）	経営者が持つべき使命
10月 コミュニケーション力について	機械メンテナンスについて	事業発展のコツ
11月 リスク管理について（リスクを低減するには）	たばこと健康について①	コミュニケーション力について
12月 ケーススタディ（成功への原点）	危機管理について	経営入門のまとめ
1月 マネジメントシステムの重要性について	たばこと健康について②	リーダー論
2月 確定拠出年金制度について	確定拠出年金制度について	経済から学ぶ未来志向
3月 エネルギーマネジメントシステムについて	廃棄物管理（3R）について	経済から学ぶ未来志向②



2016年11月ウインタースクール開催

教育の取り組み

ビジネススクール総受講者数

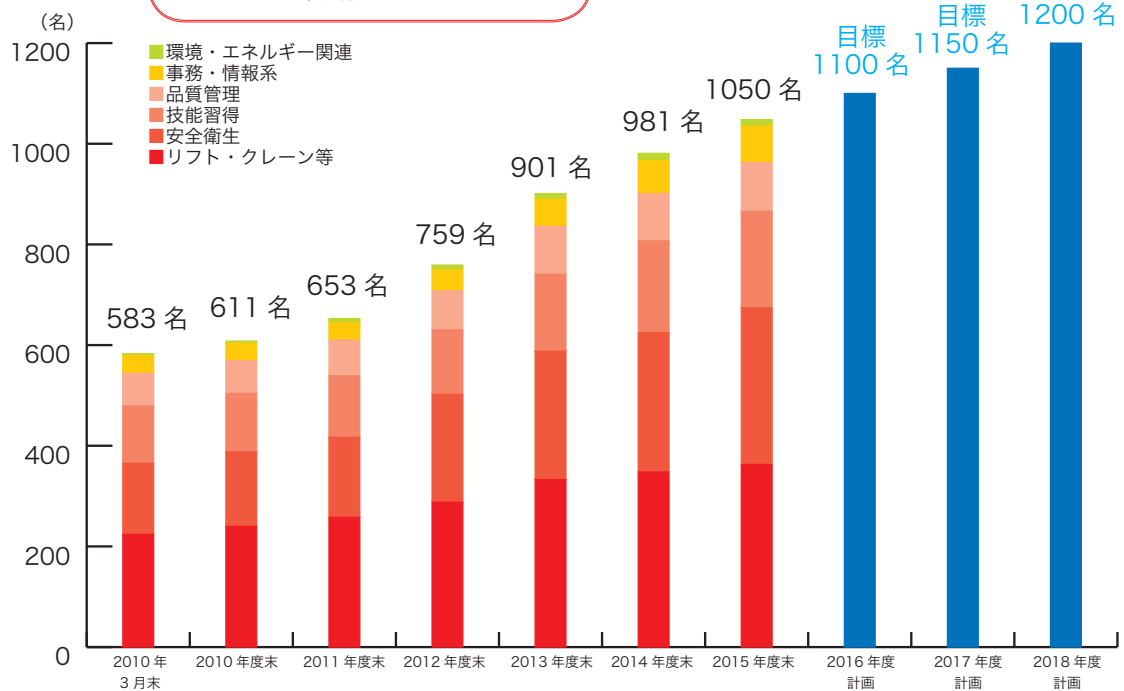


累計受講者数 **20,550名**
(2005年開校より)

資格取得支援

2016年度までにのべ1,100名、資格の全員取得を目指します。【1人=1資格以上】

$$\text{取得率} = \frac{\text{1資格以上取得者数}}{\text{総人数}}$$



●●● ハルナグループ沿革 ●●●

年	主な出来事
1996	<ul style="list-style-type: none"> ● 2月23日に資本金30百万円でハルナビバレッジ株式会社を設立 ● 第1工場稼働 ● 金融機関に対し月次決算の開示 ● 東京にマーケティング本部設置
1997	<ul style="list-style-type: none"> ● 従業員持株会発足 ● ハルナビバレッジ研究所設立 ● 第2工場稼働 ● 新日本監査法人による調査及び指導開始
2000	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3工場稼働 ● 総合衛生管理製造過程（HACCP）取得に向けた合同委員会発足
2001	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3工場がJAS工場として認定
2002	<ul style="list-style-type: none"> ● リサイクルシステム協議会発足 ● 第5回第三者割当増資及び役員社員に対しストックオプション付与 ● 四半期報告会を開催 ● 環境会計導入
2003	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業競争力の強化を図るため市場開発部門を設置 ● 提案型企業への変革を目指し商品開発部門を設置 ● HACCPの考えを充実させるため「総合衛生管理委員会」発足 ● 中小企業経営革新計画承認（中小企業経営革新支援法） ● 「デカステス」産学官共同プロジェクト（高崎健康福祉大学・群馬県） ● 人財教育投資、生産合理化投資、総合衛生管理（HACCP）対応投資 ● 第2工場において、クリーンルームと充填設備増設
2004	<ul style="list-style-type: none"> ● 第29回国際食品飲料展FOODEX JAPAN2004出展 ● 人事基本理念制定
2005	<ul style="list-style-type: none"> ● ビジネススクールを開講 ● 物流関連企業ハルナロジスティクス株式会社設立 ● ハルナロジスティクス株式会社 A倉庫完成（740坪） ● 緑地公園「ハルナコミュニティガーデン」を整備
2006	<ul style="list-style-type: none"> ● ハルナロジスティクス株式会社 B倉庫完成（860坪） ● 全社IT化に着手 ● 創業10周年記念式典開催 ● HACCP承認（厚生労働省発関厚第0912001号） ● 「地球市民ウィーク2006 環境活動展」出展（主催：高崎市）
2007	<ul style="list-style-type: none"> ● 「食品衛生優良施設」として群馬県知事賞受賞 ● ハルナウェルネスサイエンス研究所発足

1996 ~ 2017

- 2007
 - EU 輸出用緑茶「YOSHI-GO」発表
 - オーパイ株式会社事業譲受契約締結、タニガワビバレッジ株式会社準備開始
 - 合併会社ハルナヨーロッパ設立
 - ハルナグループ全体会議開催開始
- 2008
 - タニガワビバレッジ株式会社始動
 - プロ野球チーム群馬ダイヤモンドペガサスをパートナーシップサポーターとして応援
 - CSR 報告書発行開始
 - ハルナロジスティクス株式会社 C 倉庫完成
 - ハルナロジスティクス株式会社 D 倉庫完成
- 2009
 - タニガワビバレッジ株式会社 天然ガス設備稼働
 - ハルナグループ組織再編
 - ハルナロジスティクス株式会社 E 倉庫稼働
- 2010
 - 新規事業戦略センター設置
 - 新商品開発プロジェクトチーム発足
 - 「ハルナビジョン 2015」公表
 - ハルナグループ企業行動憲章・企業行動規範制定
- 2011
 - 創業 15 周年記念誌『はじめなければはじまらない』発刊
 - ハルナロジスティクス株式会社 F 倉庫完成
 - エネルギー対策委員会発足
- 2012
 - ハルナロジスティクス株式会社 G 倉庫完成
 - 震災対策委員会発足
 - プラントシステムイノベーション「見える化」にてコントロール室完成
 - ハルナグループ創業記念館新設
 - ハルナプラントのエネルギー転換（A 重油から都市ガスへ転換）
- 2013
 - ハルナグループ、持株会社体制への移行に伴う組織再編スタート
 - HARUNA Asia Co.,Ltd 設立
 - 自社ブローボトル成型機導入、稼働開始
- 2014
 - ビジネススクール榛名山麓研修所開所
 - ハルナロジスティクス株式会社 H 倉庫完成
- 2015
 - HARUNA、国際食品飲料展 FOOD EX JAPAN2015 出展
 - ハルナプラント、国際的食品安全マネジメントシステムの「FSSC 22000」を取得
 - 創業者 青木清志が日刊工業新聞社主催の第 33 回優秀経営者顕彰「優秀創業者賞」を受賞
- 2016
 - 2 月 23 日 創業 20 周年感謝の会 式典を開催
 - ハルナグループ組織再編
 - 創業者 青木清志の自伝が上毛新聞「心の譜」にて連載開始
 - タニガワプラント、「FSSC 22000」認証
- 2017
 - 群馬県の地域活性化キャンペーン「ぐんま愛 ここに生きる」を支援



編集にあたって

ハルナグループ「CSRおよびSRR報告書」は発刊10周年を迎えました。これも偏にステークホルダーの皆様の長年のご愛読と存じ、心から感謝申し上げます。

10年目を迎えたハルナグループの活動レポートでは、CSRのその先へCSV「共通価値の創造」にも着目いたしました。

今後も一人ひとりの価値ある未来に向けて、健康で快適な暮らしを守る活動を続けるとともに、ステークホルダーの皆様との対話や協働を通じて社会・環境問題の解決を推進していきたいと存じます。

2017年6月21日



ハルナビバレッジ株式会社
社長室 秘書 黒澤 厚美



古紙パルプ配合率80%再生紙を使用

本誌は、古紙パルプ配合率80%の再生紙を使用しています。このマークは、3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。